

平成24年度市民ワークショップ 検討結果

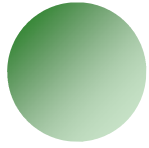
(5) 詳細編(第1回市民ワークショップ)



第1回 市民ワークショップ

○各区における検討結果

西 区	-----	55
北 区	-----	61
大宮区	-----	67
見沼区	-----	73
中央区	-----	79
桜 区	-----	85
浦和区	-----	90
南 区	-----	96
緑 区	-----	103
岩槻区	-----	110



西 区

<第1グループの皆さん>

加藤さん

中森さん

細田さん

<第2グループの皆さん>

萬年さん

佐藤さん

福島さん

テーマ1: 西区の「現況」について

良くなったこと

- 「自然を生かしたまちづくり」というコンセプト
- 西大宮駅の開業と指扇駅の整備
- 大型ショッピングセンターの開設
- 道路、街灯が徐々に整備

不足していること

- 自然保護
 - ・緑は多いというが、街路樹などアメニティ不足
 - ・里山などの開発により実際は緑が減少
 - ・荒川の不法投棄対策
- 交通インフラの整備
 - ・既存の道路が狭く、自転車、人の分離が不十分
 - ・巡回(コミュニティ)バスのルート、本数、運行日など不十分
 - ・自転車、車の増加に伴う環境整備
 - ・公園へのアクセスが不十分
- 保育所不足

テーマ2・テーマ3: 西区の「将来の姿」と近づくための「方法」

西区の「将来の姿」について

残したいもの

- 緑(里山、近隣緑地、果樹園など)の保持
- 区の花「アジサイ」を活かしたまちづくりや「アジサイ」の普及方策
- 伝統・文化、祭りなどの情報発信、強化

10年後、20年後に期待

- 交通インフラの整備
 - ・回遊型交通システム(トラム、デマンドシステム)
 - ・サイクリングブームを活かしたレク機能(荒川)
- 市の広報のイベント・メール化
- 屋台-朝市などによる商店街の活性化
- 避難場所の見直し、民間の協力

今後10年間で必要な取組

- 区産区消コンセプトの浸透
 - ・自然の豊かさを更に促す民間の取り組み支援
 - ・レンタル農地制を市が制度化、登録システムの構築
- 開かれた教育(学校)
 - ・学童保育の全日化
- 市民参加による安心・安全対策
 - ・行政まかせにしない新たな意見をもとにした防災対策も含む安心安全マップの作成

西区 第2グループ

テーマ1: 西区の「現況」について

良くなったこと

- 人口が増加により都市型サービス業等の雇用機会が増加
- 社会インフラ(公園、下水道、西大宮駅ほか)の整備
- 商業施設の整備

不足していること

●人口の(急激な)増加によるもの

- ・環境の悪化(雑木林の減少ほか)
- ・地域コミュニティの変質
(町会活動の停滞、町会の人材不足)
- ・新旧住民のコミュニケーション不足
- ・地域住民の防災意識低下
- ・地域の職・住のバランス
(主に他地域で働いている現状)
- ・バスの路線数・頻度
- ・川越線の頻度
- ・公園、街の街灯
- ・育児支援が不足

●高齢化の進展によるもの

- ・高齢者支援ボランティアの不足
- ・高齢者の交通手段の確保

テーマ2・テーマ3: 西区の「将来の姿」と近づくための「方法」

西区の「将来の姿」について

残したいもの

●社会的なもの

・顔の見えるコミュニケーションのあるまち

●経済的なもの～「区産区消のまち」～

・地域で必要とするサービス等を地域が提供できるまち

10年後、20年後に期待

●社会インフラの整備

・自転車道や歩道が整備された外出しやすいまち(バリアフリー化)
・交通の利便性の向上

●住民同士ゆるやかなつながりのあるまち(≒自主性が重んじられる(災害時に)協力しあえるまち)

・安全・安心の推進
・防犯意識の共有化

●他人への思いやり

・弱者(高齢者・障害者等)の支援
・子育てしやすいまち

●地域経済の循環

・農産物の地産地消
・(有休農地の)レンタル農園利用

今後10年間で必要な取組

●(誰もが共感する)安全・安心からのアプローチ

・防災をテーマにした共同作業(防災マニュアル・マップ作成)
・多様な防災訓練(夜間に実施、泊り込み)等

●コミュニティの活性化

・イベント開催時の場所(町会会館・古民家等)の提供
・コミュニティ・コーディネーターの育成
・有償ボランティア制度の整備 (注)無償奉仕では長続きが困難
・情報伝達の多様化(メール、掲示板、SNS、回覧板)

●新しいコミュニティのあり方を検討

・意識の共有化
・子育てコミュニティ、介護コミュニティの形成(介護者のリフレッシュをサポート)

●「区産区消」地域経済の循環(農作放棄地の活用)

・土いじりをしたいサラリーマン等にレンタル農園(農家が作業を指導)
・農産物によるブランド化(まず地域で売る)

西区 その他「言い足りなかったこと」(アンケートより)

●テーマ1 区の現況について

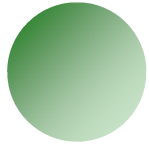
- ・路線の問題
- ・未婚者対策
- ・「土チャレ」という学習支援をやっていることを初めて知った。子どもがいなくても教育現場がどうなっているのか、社会の一員として関心があるので、広報を充実させてほしい。

●テーマ2 区の将来の姿について

- ・東京メトロや富山市のトラムのような交通公共インフラの整備

●テーマ3 将来の姿に近づくための方法について

- ・市民(区民)の参加が必要



北 区

<第1グループの皆さん>

小澤さん

須賀さん

高橋さん

矢吹さん

<第2グループの皆さん>

小林(二)さん

島村さん

野田さん

三浦さん

テーマ1:北区の「現況」について

良くなったこと

- いくつかの学校に特別支援学級ができた
- 宮原駅西口ロータリーが整備
- 高崎線の立体化
- 祭り、イベント開催により地域交流が生まれている
- 防犯パトロール、防犯ボランティアの活動がしっかり行われている
- 森が残されている

不足していること

●交通機関等の整備

- ・東宮原駅などにエレベーターを設置してほしい
- ・日進駅周辺に交番が少ない
- ・上尾市との境において道路が分断
- ・コミュニティバスは土日も走ってほしい
- ・歩行者と車が狭い道で輻輳

●地域の活性化

- ・新住民も参加しやすくなる祭りやイベントなど(新住民としては地元の方にちょっと遠慮する)
- ・日進駅前通りの商店街がシャッター通りになってきた。高齢者には不便
- ・防犯パトロールなど(熱意のある方の善意に頼っている面があるのではないか)

●逆川の活用

- ・逆川の湧水、せせらぎという貴重な資源が生かされていない
- ・逆川のせせらぎ再生は多面的な展開が期待できる(ランニング、ウォーキングコース、水生生物の生息環境→子供の遊び場、災害時の水源確保、清掃活動による地域交流、人がかかわれば良好な店舗立地、安全な通勤路にもなる)

●ゴミ置き場、収集マナーが問題

- ・事業系ゴミが勝手に捨てられている
- ・カラス対策(ボックスの設置など)

テーマ2・テーマ3: 北区の「将来の姿」と近づくための「方法」

北区の「将来の姿」について

残したいもの

●「もの」

・盆栽村、地元産の農産物、果樹園

●「こと」

・区民祭り(熱気球体験飛行)、宮原祭り、ラジオ体操

●「場所」

・逆川、三貫清水、雑木林、森、水源地

10年後、20年後に期待

●「帰宅(きたく)したくなるまち 北区」

●水と森のネットワーク形成

・地域の背骨となる「逆川」の湧水、清流の再生
・残された雑木林の維持管理の工夫

●子育てがしやすくなる自立的な生活圏域の形成

・地元で子育て、学び、働ける自立的な環境づくり

●地域交流の活性化

・若者が地元で活躍できる環境づくりの一環として、イベントや祭りによる交流機会の創出

今後10年間で必要な取組

●いろいろな立場の人が交流する場づくりが重要
(子供、地元の若者、障害を持つ方、高齢者等々)

●子供、若者への働きかけ
(誰かがやり始めないと動かない!)

・子供の職業体験
・社会的弱者をサポートする活動への参加

●地域に埋もれた人材発掘
(どうやって引き出すか、きっかけがない)

・団塊世代の職業技術や知恵
・子供に教えられる技能を持った方
・お年寄りの知恵、技

●身近な地域活動への働きかけ(既存組織の改革が必要)

・自治会、町会
・子供会、PTA
・公民館活動 等々

●行政と市民のコミュニケーションのあり方

・行政の意思決定のシステムが見える・分かるような仕組み
・地域に埋もれている人材を活用

テーマ1: 北区の「現況」について

良くなったこと

●全体的に都会でも田舎でもない「ちょうどいいまち」

●住環境

- ・良好な買い物の環境(大きなショッピングセンターから小規模のスーパーまでバリエーション豊富)
- ・子育てしやすい(待機児童も減っている)

●自然(緑・水)

- ・水: 川が多い、湧水がある
- ・緑: 公園が多い、盆栽(地域の誇り)

不足していること

●自然(緑・水)

- ・水: 水を身近に感じられない(遊歩道などが整備されていない、子どもが気軽に遊べない)
- ・緑: 開発の影響で緑が少なくなっている

●地域コミュニティ

- ・自治会・町会はある。しかし、人口は増えても、参加する人が減っている。
- ・人と人のつながりが希薄になってきている(特に旧住民と新住民)
- ・防災・防犯面で不安

●医療

- ・メディカルセンターがない
- ・救急救命病院がない
- ・産科が少ない

●交通

- ・ニューシャトルの一部の駅にエレベーターやトイレがない
- ・コミュニティバスは分かりにくい。乗降客が少なく、もっと路線を考えるべき
- ・狭い道が多く、歩行者・自転車・自動車を分離することが必要

テーマ2・テーマ3： 北区の「将来の姿」と近づくための「方法」

北区の「将来の姿」について

残したいもの

●お祭り

- ・まちのお祭り
- ・大宮日進七夕祭り

●水辺の環境

- ・見沼代用水
- ・逆川
- ・湧水

●歴史

- ・賀茂神社

●緑

- ・北区にある大木(宮原小学校のセンダンの木など)
- ・市民の森
- ・芝川の桜

10年後、20年後に期待

●10年後、20年後も「ちょうどいいまち」を維持

- ・北区の良さを活かす
- ・乱開発をしない

●地域のつながり

- ・最近では住民が自分の地域のことが見えていない、分かっていない
- ・地域のつながりを取り戻す
- ・子どもが集まれる場所、いろいろな人が参加できるサロンをつくる
- ・場をつくることによって、新しい人も参加しやすくする
⇒住民同士のつながりが生まれる

●自然を見直す

- ・昔の自然の姿に戻す(川)
- ・川べりで遊べるようにする

●コミュニティバスの充実

●高齢者の住みやすい環境づくり

- ・買い物弱者に対する対応
- ・今ある建物を使って高齢者の活動する場をつくる
- ・病院の設立(救急)
- ・高齢者や障害者のために道路・施設のバリアフリー化が重要

今後10年間で必要な取組

●住民や企業がやること

- (一人ひとり)
 - ・近所の人への声かけ
- (自治会など)
 - ・子育て支援
 - ・お祭りの開催
 - ・清掃活動や教育活動への参加
- (企業)
 - ・渋滞を防ぐ方法を講じる

●行政がやること

- (交通)
 - ・コミュニティバスの充実
 - ・ニューシャトルの駅のトイレ・エレベーター設置
 - ・道路の整備(拡幅・バリアフリー化)
- (病院)
 - ・夜間・救急に対応する病院の設置促進
 - ・産科を増やす

(教育)

- ・地元の歴史を教える

(自然)

- ・川の環境整備
- ・市民の森のトイレの洋式化

北区 その他「言い足りなかったこと」(アンケートより)

●テーマ1 区の現況について

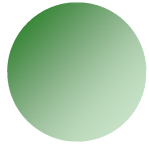
- ・公共施設のトイレの設置・洋式化等(身近な問題から早く解決すべき)

●テーマ2 区の将来の姿について

- ・宮原駅の快速電車の停車
- ・総合病院の開設
- ・住民との距離を近づける努力が必要
- ・高齢者に優しい街にしたい

●テーマ3 将来の姿に近づくための方法について

- ・自転車専用道路については、タウンミーティングにもあったように必要だと思う
- ・コミュニケーションをとる場を設ける(PR等、市民・区民との対話を多くする)
- ・大変難しい課題だと思う



大宮区

<第1グループの皆さん>

上田さん

榎本さん

齋藤さん

<第2グループの皆さん>

家田さん

佐川さん

徳山さん

二敷さん

テーマ1:大宮区の「現況」について

良くなったこと

●ハード面での状況

- ・かみこ公園のグリーンパラソルの推進
- ・大宮駅東口銀座通りアーケード撤去
- ・電柱・電線の地下埋設
- ・大宮公園サッカー場のキャパが増えた
- ・駅ナカビジネスecute大宮で買い物が便利に
- ・大宮駅西口のデッキ
- ・大宮駅西口そごう前駐輪場と西口立体駐輪場
- ・大宮駅西口駅前通り道路拡幅
- ・県営大宮球場での西武戦開催

●ソフト面での現状

- ・見沼田圃に見所がたくさんある
- ・大宮公園では仕事帰りのスポーツに快適
- ・氷川神社の薪能
- ・県立博物館、弓道場があり、スポーツ・文化が揃っている
- ・自治会活動が活発
- ・シルバー世代の活躍が目立つ

不足していること

●ハード面での状況

- ・歩道の段差や電柱
- ・大宮駅西口国道17号の交通渋滞
- ・大宮駅近くの駐輪場(需要量は供給量と見合っているか?午前中でいっぱい)
- ・降雨時に水はけが悪い
- ・雑木林がなくなった

●ソフト面での現状

- ・大宮駅周辺の暴走族問題
- ・地域コミュニティの世代交代がうまくいかない
- ・自転車泥棒が多い
- ・放置自転車が多い
- ・(都市化のため)気温が高くなった

テーマ2・テーマ3:大宮区の「将来の姿」と近づくための「方法」

大宮区の「将来の姿」について

残したいもの

●安心・安全

- ・健康に過ごせる環境
- ・自治会の消防団

●便利さ

- ・交通の要衝
- ・男女共同参画のための施策

●生活の質と文化

- ・大宮公園施設の継続
- ・伝統芸能(神楽・神輿・囃子)
- ・氷川参道や鉄道博物館
- ・文化財

10年後、20年後に期待

●安心・安全

- ・バリアフリー化された綺麗な広い歩道
- ・災害への強さと近代的対策
- ・ユニバーサルデザイン
- ・一人暮らし、独居老人の安全・安心

●便利さ

- ・高齢層の活力
- ・施設内容の充実
- ・公共施設の対象者の年齢構成変化に応じた機能変更

- ・大宮駅東口、西口を結ぶ地下通路、新都心駅への通路
- ・共同溝で水、電気、ガス、下水、通信を一括管理

●生活の質と文化

- ・外国人との交流
- ・大宮駅周辺を落ち着いて明るくお洒落な雰囲気
- ・公教育の質向上
- ・生活道路に木漏れ日が見られる街路樹整備

今後10年間で必要な取組

●安心・安全(防災)

- ・防災対策の徹底
- ・雨水の流入経路調査と弱点克服
- ・自治会消防団の充実と対策装備

●安心・安全(防犯)

- ・警察と市民が協力した大宮駅周辺の暴走族対策

●安心・安全(健康)

- ・歩道のバリアフリー化
- ・ユニバーサルデザインで障害者・高齢者にやさしく
- ・一人暮らしの安全確保を公共サービス(水道検針など)で担保

●便利さ(まちづくり)

- ・新都心までの開発
- ・大宮駅東口駅前再開発
- ・共同溝で水、電気、ガス、下水、通信を一括管理

●便利さ(交通)

- ・学生の夏休み期間の駐輪場有効活用
- ・大宮駅西口・東口通路

- ・電柱の地中化
- ・狭隘道の中型車以上の車両規制
- ・放置自転車対策と駐輪場拡充
- ・大宮駅西口駅前国道17号の渋滞原因調査と対策

●生活の質と文化(ソフト)

- ・小中学生に余暇期間を(教師の質向上で塾通い削減)
- ・伝統芸能(神楽・神輿・囃子)を自治会館を拠点にして振興
- ・シルバー世代ボランティアによる文化財保護

●生活の質と文化(ハード)

- ・公園に高齢者体力増進器具設置
- ・大宮公園のワーキングコースの設定と整備
- ・グリーン化による気温対策

●生活の質と文化(システム)

- ・公共システムの社会的需要変化に応じた、機能変更
- ・ハードウェアに依存しない行政サービスの提供

大宮区 グループ2

テーマ1:大宮区の「現況」について

良くなったこと

- インフラ整備(交通、道路、防水害、公園、図書館)
- 特に大宮駅近辺のまちの活気(東口:アーケード、西口:予備校、専門学校、鉄道博物館、駅ナカ)
- 市民活動支援も多少は改善した

不足していること

- 市区全体として道路整備が遅れている
 - ・道幅が狭い
 - ・自転車道がない
- まちの魅力不足
 - ・大宮駅東口の環境
 - ・若者の活動する場の不足
- 市民活動の場づくりが不足
 - ・公民館活動、自治会活動の問題
 - ・市民が参加できる長期的なイベント
- 子育て支援の不足
 - ・病院、公園が不足しており、子育てへの配慮が足りない
- 周辺市街地の将来展望不足
 - ・農地の無計画的宅地化

テーマ2・テーマ3:大宮区の「将来の姿」と近づくための「方法」

大宮区の「将来の姿」について

残したいもの

●**自然や文化資産**

- ・氷川神社の緑、祭り、中山道、下町情緒、結婚式場、自然

10年後、20年後に期待

●**魅力をみんなで知って活かせるまち**

●**安全を実感できるまち**

●**大宮区全体で活気のある商店街のあるまち**

●**人にやさしい道路交通のあるまち**

●**誰もが参加できるコミュニティのあるまち**

●**公民が連携しているまち**

今後10年間で必要な取組

●**新しい自治の場の形成**

- ・みんなでコミュニケーション、市民参加の促進(PRや広報をしっかりとやる。地域全体で市民参加可能な環境をつくる)

- ・コミュニティ参加の拠点づくり(駅の近くで)

大宮区 その他「言い足りなかったこと」(アンケートより)

●テーマ1 区の現況について

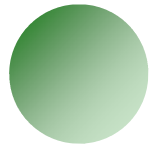
・現状が良く理解できていなかったことが分かった

●テーマ2 区の将来の姿について

・将来像が良く理解できなかった(説明してもらった方が良かったかもしれない)

●テーマ3 将来の姿に近づくための方法について

・ハードからソフトへ軸を移動させるタイミングが重要だと思う



見 沼 区

<第1グループの皆さん>

磯川さん

貴田さん

澤井さん

原さん

本郷さん

<第2グループの皆さん>

江原さん

小澤(奈)さん

小林(玲)さん

檜垣さん

宮本さん

テーマ1：見沼区の「現況」について

良くなったこと

●緑が豊富

- ・公園整備が進んだ
- ・遊歩道が整備され、快適に散歩ができるようになった(散策する人が増加)
- ・地域に花と緑が増えてきた
- ・田圃の風景に癒される
- ・見ごたえのある桜が多い
- ・植木の街の名残がある

●安全性に恵まれた立地

- ・エリアによっては、地盤が固く地震に強い

●日常生活に便利な公共交通機関の整備

- ・コミュニティバスが運行された

不足していること

●道路整備が不十分

- ・行き止まりがある、幅員が狭い、通学路に歩道がない
- ・幹線道路が必要(交通渋滞がひどい(特に雨天時))
- ・県道整備に伴い生活道路の通行車両が増加し、歩行者が危険になった(歩道がない)
- ・事故が多い(自転車、歩行者、車)
- ・自転車が安全に走行できる道路になっていない
- ・駅前に違法駐輪が多い(晴天時)
- ・街灯不足(痴漢多発につながっている)

●車がないと区内移動が困難

- ・車前提の街づくりになっている
- ・交通機関の不備(コミュニティバスの経路は区内を網羅していない、平日のみの運行)

●痴漢が多い

●高齢化対策が必要

- ・高齢者のスキルを活用できる場・機会が必要
- ・予防医療対策の充実化(軽く運動ができる場)
- ・孤立化を防ぐ必要
- ・コミュニティの場に行く手段がない

●景観の保全

- ・河川が汚い(綾瀬川にゴミを捨てる人が多い)
- ・休耕田が増加

●生活関連施設整備が不十分

- ・コミュニティセンター等公共施設へのアクセス手段が乏しく、隣の区の施設を利用
- ・交通利便性の良い施設は、利用倍率が高く利用できない
- ・総合病院がない(隣の区の病院を利用)
- ・区の面積に比し、スポーツ施設が少ない

テーマ2・テーマ3：見沼区の「将来の姿」と近づくための「方法」

見沼区の「将来の姿」について

残したいもの

- **景観・自然環境**
 - ・富士山を見られる環境
 - ・きれいな河川
 - ・田圃
 - ・桜等の樹木
- **区内循環バスといった生活に
便利な公共交通機関**

10年後、20年後に期待

- **豊かな自然のある街**
 - ・見沼田圃のある風景
 - ・豊富な樹木のある街
(四季折々に花が咲く)
 - ・綾瀬川の清掃活動をさらに拡大させる
 - ・ホタルが生息する環境
- **富士山を眺めることができる街**
 - ・見沼区が一望でき、区民の憩いの場
となる高台がある等
- **地域資源を活かした街**
 - ・市営霊園を活用した地域づくり(憩いの場、区民の福利
厚生等)
 - ・自転車ロード、緑のヘルシーロードを充実させる
- **あちこちで子どもの声が聞こえる街**
- **働きながら子どもを育てられる街**
 - ・学校と地域との充実したネットワーク
 - ・充実した学童保育、保育所の整備
- **医療機関の充実**
- **痴漢のない街(安全な街)**
- **飛び地のない町名**

今後10年間で必要な取組

- **財政負担の軽減**
 - ・見沼区のための寄付制度(ふるさと納税等)を設置
 - ・敬老の祝金・祝品を廃止
- **地元のことを知る～区民が地元に対する愛着をもつ～**
 - ・区民が地元のことを知る機会を設ける
 - ・市や区の歴史・文化を知る(旧坂東家等の歴史的建物を残す)
 - ・区民が地域の歴史・文化を知り、文化意識を高める
- **行政と市民が行う安全安心な環境づくり**
 - ・街灯の設置
 - ・パトロールの実施(PTA、自転車パトロール、老人会、
犬のパトロール等を全域実施)
 - ・防犯カメラの設置
 - ・自治会での防災パトロール
 - ・地域活動のスタート時にルール等の講習を実施
- **安全で快適な交通手段の確保**
 - ・自転車免許証を発行(子ども～高齢者)
 - ・自転車の気配を歩行者に気付かせ歩行者の安全を確保
 - ・コミュニティバスの路線、運行日の見直し
 - ・区画整理により、計画的な道路、歩道確保を整備
- **人財活用の場づくり**
 - ・団塊世代の知恵・スキルを活用
 - ・大学と連携した市民カレッジの充実
 - ・生涯学習などでスキルアップし、活用できる場の創出

テーマ1：見沼区の「現況」について

良くなったこと

●自然環境

- ・公園などが整備されてきた
- ・桜、ヒガンバナ

●交流

- ・市民の森でのイベントなど
- ・スポーツ少年団等の活動が盛況

●交通

- ・東新井など交通アクセスが良い

●生活

- ・病院、介護施設が充実(東新井、大和田)
- ・区役所ができて、合併前よりは便利になった

●治安

- ・公園のパトロール(小学校の父兄によるもの)
- ・地域のパトロール(年配の男性によるもの)

不足していること

●全体

- ・発展しない
- ・区内の地域差が大きい
- ・人口集中が緩和されない可能性がある

●自然環境

- ・公園が不足
- ・自然の整備が不十分(手入れ、案内板等)
- ・道路をつくるために森林が伐採

●交流

- ・高齢者の孤立化
- ・若い世代と高齢者世代の交流が少ない
- ・自治会活動全般を後継する人がいない
- ・区のイベントを知る機会が少ない

●交通

- ・道路整備が進んでいない(舗装されていない、狭いなど悪条件)
- ・コミュニティバス、路線バスともに経路、本数が地域によって偏りがある
- ・都内へのアクセスが悪い
- ・東大宮駅東口のエスカレーターの整備(現在は上りのみ整備されている)
- ・東大宮駅東口の美化

●生活

- ・下水道整備の遅れ

●治安

- ・パトカーに防犯パトロールをしてほしい
- ・土呂中の前の田畑の歩道が物騒(安心して散歩や登下校ができる環境)
- ・街路灯が未整備

テーマ2・テーマ3： 見沼区の「将来の姿」と近づくための「方法」

見沼区の「将来の姿」について

残したいもの

●スポーツ環境

- ・サイクルロード、緑のヘルシーロード

●自然環境

- ・見沼田圃
- ・河川（見沼代用水、芝川）
- ・緑
- ・のどかな景観（過度な都市化は避ける）

●伝統文化

- ・古民家（旧坂東家住宅見沼くらしっく館等）
- ・見沼の伝承
- ・砂の万灯

10年後、20年後に期待

●安心して暮らせる地域づくり、高齢者、子供に優しい環境

- ・区民が何らかのスポーツに関与できるまち
- ・区以外の人も何度も足を運ぶことのできる交流のある区政
- ・コミュニティの活性化
- ・介護家庭や高齢者にも思いやりある地域
- ・子供と母親を地域で見守り、ともに育てる地域
- ・高齢者や若者もなんらかの社会貢献ができる社会
- ・高齢者もいろいろな行事に参加できるようにしたい
- ・活発な地域活動、サークル、広報
- ・地域に無関心ではないコミュニティ
- ・道路が拡張され、大宮駅まで安全に自転車通勤、通学ができる
- ・鉄道が整備され、通勤、通学が便利になる
- ・多機能トイレが至る所に設置される
- ・子供のおむつを換えるスペース等がある

●道の見通しが良くなり、変質者が減る

●美しい街

- ・緑、自然を活かした洗練された街並み
- ・駅通りの美化、ベンチ等のあるまち

今後10年間で必要な取組

●行政に取組んでいただきたいこと

- ・企業誘致
- ・見沼区の作業見学会
- ・見沼区を拠点にした若者の就業
- ・宅地開発
- ・ショッピングモール
- ・道路用地を確保し、拡張する
（公園をつぶしたり、住民の協力を得る必要）
- ・身近な自然を観光資源にして観光地として広報

●市民レベルで取り組めること

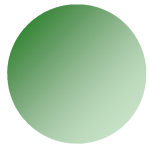
- ・ITの活用（メルマガ、メール）
- ・市民サークルの立ち上げ
- ・「見沼を考える会」ワークショップの多用
- ・古民家を残す（認定制度を創設）
- ・高齢者の経験、ノウハウを小中学校で講演
- ・各自治会で実情に合った高齢者対策を考える
- ・自然通信員に見沼の自然をレポートしてもらう
- ・自治会の班単位で防犯パトロールを実施する
- ・費用がなければ、ボランティアで道路をつくる

●**テーマ2 区の将来の姿について**

- ・美しい見沼区
- ・暮らしやすい見沼区

●**テーマ3 将来の姿に近づくための方法について**

- ・地域を良く知ること
- ・行政から住民への情報提供の機会を増やす



中央区

<第1グループの皆さん>

菅原さん

田中さん

芳賀さん

星野さん

<第2グループの皆さん>

中川さん

中鶴さん

中村さん

山口さん

テーマ1：中央区の「現況」について

良くなったこと

- 文化・歴史に触れやすい環境
- 利便性がよい

不足していること

- 活気ある商店街
- 緑
- 参加しやすい自治会
- 地域の若者が地元就業しやすい環境

テーマ2・テーマ3：中央区の「将来の姿」と近づくための「方法」

中央区の「将来の姿」について

残したいもの

- 桜、バラといった草花などの自然(景観)

10年後、20年後に期待

- 安心して子供を産み育てることができる
 - ・延長保育・駅前保育
 - ・コミュニティバスの運行
- 若者の自治会参加
- 地域が雇用を応援するまち
- 高齢者が参加できるまち

今後10年間で必要な取組

●若者の社会参画の推進

- ・コミュニティ支援
- ・若者の積極的参加の促進(リーダーとして)
- ・若者が参加できる総合計画
- ・ハローワークと職業紹介業の連携による若者等雇用支援

●地域コミュニティの活性化

- ・NPOの活用
- ・地域の協議会設立

●自然環境保護の取組

- ・学校の芝生化推進

テーマ1：中央区の「現況」について

良くなったこと

●買い物環境

- ・大型ショッピングモールがあり、買い物が便利になった

●交通環境

- ・埼京線・京浜東北線がある
- ・区内は自転車ですべてどこでも行ける

●文化施設

- ・彩の国さいたま芸術劇場は素晴らしい
- ・図書館が便利

不足していること

●子どもの環境

- ・子どもの遊ぶ場が少ない
(公園はあるが、暗いところが多い。緑が少ない。)
- ・子ども同士のつながりが希薄になっている

●地元の歴史文化を知る機会

●高齢者の環境

- ・歩道に段差が多い等、高齢者に配慮したまちづくり

●交通環境

- ・道路が混雑(車が多い)
- ・バスが遅れがち
- ・自転車の駐輪場が少ない

●買い物環境

- ・商店街がさびれてきている

●ごみ量の増加

- ・合併後、ごみ袋が無料化され、ごみの量が増えている

テーマ2・テーマ3：中央区の「将来の姿」と近づくための「方法」

中央区の「将来の姿」について

残したいもの

●**住みやすい街であること**

- ・与野のスカヤ
- ・鴻沼川のサクラ
- ・旧鎌倉街道沿いの街並み(蔵づくり)

10年後、20年後に期待

●**「バリアフリー」が進んだまち**

- ・高齢者にとって住みよい街にする
- ・子どもにとっての環境を良くする
- ・旧住民(旧与野市より現中央区にお住まい方)と新住民(さいたま市になってから中央区にお住まいになった方)の意識・心の壁をなくす
- ・世代間の交流を進める

今後10年間で必要な取組

●**まちをきれいにする**

- ・個人でできること:ごみの量を減らす、ごみの分別、家の前の掃除
- ・自治会等でできること:まち・公園等の清掃活動
- ・行政ができること:駐輪場の整備

●**子育て環境の充実**

- ・個人でできること:子どもの成長に興味を持つ、子どもと遊ぶ・勉強を教える(預かる)
- ・自治会等でできること:地域全体で学校に協力
- ・行政ができること:教師の育成、教師を目指す学生をボランティアとして活用、子育て支援システムの充実

●**高齢者支援**

- ・個人でできること:買い物と一緒にいく、近所の老人に気遣う
- ・自治会等でできること:退職後の元気な老人に地域のキーマンになってもらう
- ・行政ができること:歩道のバリアフリー化、コミュニティバスの充実

●**世代間のつながり**

- ・個人でできること:ご近所への気配り、地域内で飲み会を実施
- ・自治会等でできること:高齢者が子どもに遊びを教える場づくり
- ・行政ができること:場所の提供(学校の利用、空き店舗の活用)

●**地域内のつながり**

- ・個人でできること:あいさつ、口コミを流す、友人を地域のイベントに誘う、一緒に買い物をする
- ・自治会等でできること:新しい地域コミュニティを作る、お祭りなどの魅力あるイベントを企画し、交流の場をつくる
- ・行政ができること:地域の情報を得やすい環境づくり(場所、人材などの情報)

中央区 その他「言い足りなかったこと」(アンケートより)

●テーマ1 区の現況について

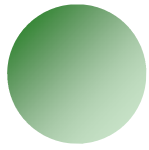
- ・商店街のさびれた現状
- ・文化に触れる機会(彩の国さいたま芸術劇場、さいたまスーパーアリーナが整備されて良かった)

●テーマ2 区の将来の姿について

- ・公共交通機関の在り方(特にコミュニティバスの充実)

●テーマ3 将来の姿に近づくための方法について

- ・非常に難しい問題で、具体化には時間がかかるのではないか
- ・「〇人でできること」という切り口で考えることは新しい発見であった



桜区

<桜区の皆さん>

池亀さん

伊東さん

根本さん

平岡さん

テーマ1：桜区の「現況」について

良くなったこと

●自然など住環境として魅力的

- ・緑が多くて良い
- ・サクラソウの自生地がある
- ・歩く環境として良い
- ・静かである
- ・西浦和駅前がきれいになった
- ・プラザウエストができた
- ・体育館・プールが使いやすい
- ・学校帰りの子供たちの声が良い
- ・埼玉大学があり、学生の力が街にある
- ・水はけが良くなった(防災面)

●「桜区」という名前が良い

●住民意識の高さ

- ・住民の防犯・防災意識が高い(夕方の消防の拍子木が良い)
- ・区役所周辺の緑を市民が管理している

不足していること

●生活環境の向上(生活利便性、安全面)

- ・自転車に乗るには不便な街並み
- ・西堀は坂道が多い
- ・交通の便が悪い
- ・コミュニティバスが使いにくい(本数が少ない)
- ・道が狭い
- ・夜は人が少なく暗い
- ・子供の安全が心配である
- ・「共育」の環境があれば良い
- ・買い物が不便である
- ・災害に弱そう
- ・福祉施設がどこにあるのかわかりにくい

●経済面での魅力向上

- ・似たようなお店が隣接しすぎている(焼き鳥屋・歯医者多すぎ)
- ・若者が就職で地元を離れてしまう

テーマ2：桜区の「将来の姿」について

桜区の「将来の姿」について

残したいもの

●サクラソウだけじゃない花・竹・樹木
などの自然

●区を代表する施設

- ・埼玉大学
- ・プラザウエスト
- ・古来からある行事

10年後、20年後に期待

●今ある資源の保存

- ・自然が多い区
- ・花・緑のあふれる美しい街
- ・年間のお祭り

●車がなくても住みやすい街

- ・公共交通の充実
- ・自転車道・歩道をしっかり整備してほしい
- ・渋滞の解消
- ・プラザウエストへのアクセス向上
- ・駅に車を止めたい(パーク&ライドの導入)

●みんなが仲良く暮らせる街

- ・世代間交流の活発なまち
- ・学童と団塊世代との交流(校区ごと)
- ・学童と埼玉大学との交流(プラザウエストも活用)
- ・シルバー世代が子育て世代に知恵と経験を伝える
- ・ゲートボール以外の年配者交流の場
- ・新住民と旧来からの住民が交流する場所をつくる
- ・近所のコミュニケーション
- ・取材や広報などに埼大生に協力してもらい、社会との接点を設ける
- ・コミュニティセンター、公民館を入りやすくする(初めての人にもやさしく)
- ・若者が出て行かず、ずっと住みたいとみんなが思える区

テーマ3：桜区の「将来の姿」に近づくための「方法」

今後10年間で必要な取組

●もっと広く自然を育てる活動をする

- ・花だけでなく作物(野菜)を植えてみる
- ・今の緑をなくさない都市計画をする
- ・季節ごとに秋ヶ瀬公園などで花・畑を散策できる区
- ・田植え活動

●生活利便性・安全性を高める

- ・コミュニティバスを土日使えるようにする
- ・中浦和ー南与野の間が暗いので明るくする
- ・自転車道・歩道を充実する
- ・ウォーキングが安全にできる区
(「さくらウォーキングロードマップ」の作成など)
- ・駐輪場やプール料金の見直し
- ・JR用地の商業活用を図る
- ・西堀高沼公園の充実、東屋や砂場の管理の徹底
- ・子供が安全に遊べるようにする

●街のPR活動の推進

- ・掲示板、回覧板、facebook、Twitter、Ustreamなど多様な手段による告知活動
- ・市民が発信者になる広報スタイル

●子供と大人の交流

- ・近所住民が交流できる場をつくる
- ・趣味のグループの告知方法を工夫
- ・お祭りの盛り上げ、年間お祭りマップと由来紹介チラシ
- ・プラザウエストに世代ごとに壁新聞を作って貼る
(世代間交流にもなる)
- ・住民ボランティア組織を結成し、公園の花畑管理などを行う
- ・プラザウエストのさらなる積極活用
- ・シルバー世代の子育て世代支援
- ・埼大生が子供に教える場をつくる

●ハード面は時間がたてば改善されていく。ソフト面の取組が大切

桜区 その他「言い足りなかったこと」(アンケートより)

●テーマ1 区の現況について

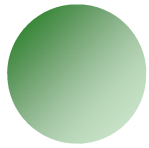
- ・発展途上だと思っている
- ・プラザウエストまでの交通が不便

●テーマ2 区の将来の姿について

- ・道路整備等が進めば良好な環境が得られるのではないか

●テーマ3 将来の姿に近づくための方法について

- ・税の負担が重い中間世代の人々の意見を具体的に集約する作業が必要ではないか
- ・秋ヶ瀬公園にサクラソウ以外の花を植えて、人々が集まるようにする
(富良野のラベンダー畑のような事例もあるので検討する余地はあるのではないか)



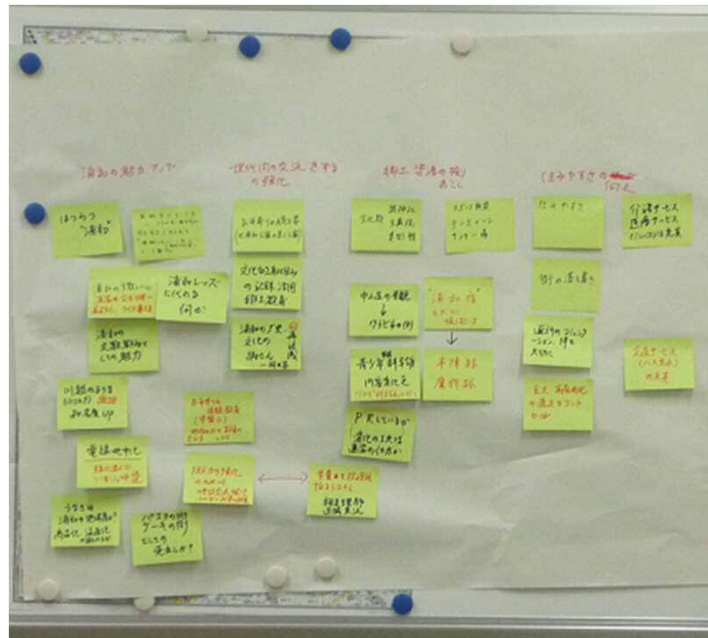
浦 和 区

<第1グループの皆さん>

新井(淑)さん
加賀谷さん
清家さん
廣川さん
山崎さん

<第2グループの皆さん>

門脇さん
佐々木さん
沢本さん
山本さん



テーマ1：浦和区の「現況」について

良くなったこと

●浦和駅を中心とした開発が進展

- ・連絡通路が開通し、浦和駅の西口と東口の交流が容易になった
- ・浦和駅東口の開発が進んだ

●中央図書館が開館

- ・21:00まで利用できて、利便性が向上した
- ・交通の利便性が良い
- ・所蔵資料が多い

不足していること

●道路・交通が不便

- ・新大宮バイパスから国道17号線までの道路整備が中途半端
- ・循環バスがほしい
- ・電車の連絡が悪い

●文教面での取り組み不足

- ・文教地区と言われるが、小学生の学力に不安を感じる
- ・「文化の小径づくり」はもっと周知が必要

●まちづくりの考え方について再考が必要

- ・大宮との効率的・効果的な機能分担が必要
- ・商業・サービス業を活用するなどして、まちのブランドを活かすことが必要
- ・まちづくりにもっと市の予算を使うべき

●高層建築物が乱立

- ・マンションやビル等の乱開発により景観が失われている。電線地中化や神社・仏閣・古民家の活用などによる美観整備が必要
- ・マンション規制に統一感がない(特に旧中山道沿い)

●治安が悪化

- ・北浦和の治安が悪い
- ・県立近代美術館付近に不審者が多い
- ・治安情報について、警察と学校間の連絡が不足しているのではないか

●子供連れで楽しめる商業施設が少ない

- ・ショッピングモールがない
- ・子供連れで行けるアミューズメント機能を有した商業施設がない

テーマ2・テーマ3：浦和区の「将来の姿」と近づくための「方法」

浦和区の「将来の姿」について

残したいもの

- **住みやすいまち**
 - ・全体的に不便さがない
- **景観の良さ**
 - ・旧中山道の景観
 - ・電線地中化
- **住民同士の交流**
 - ・子育て世帯と元気な高齢者の交流
- **文化的取り組み**
 - ・各種文化的取り組みは高齢者の生きがいにもなっている
- **まちのブランド力とイメージの良さ**

10年後、20年後に期待

- **巨大・高層建築の抑制**
- **新しい魅力の打ち出し**
 - ・宿場町、浦和の歴史、旧中山道など歴史的な魅力はあるが、うなぎ、パスタ、ケーキなどについては、まだ力不足を感じる
 - ・PR、運営手法の変更も含め、新しい魅力の打ち出しについて検討してほしい
- **住みやすいまちであり続けてほしい**

今後10年間で必要な取組

- **東西連携の強化**
 - ・東西の交通網を整備・強化し、交流を促進することが必要
- **高齢者と子育て層への支援**
 - ・高齢者・子育て層のニーズ調査を行い、手厚い支援を行うことが必要
 - ・各種情報をまとめたハンドブックなどがあると良い
- **イベントなどによる商店街の活性化**
 - ・街コンなど、商店街を活用したイベントを行ってほしい
- **歴史文化の発掘と教育**
 - ・浦和検定などを行い、歴史文化の周知や新しい魅力を発掘・アピールすべき
 - ・地域力を取り入れた教育を推進
- **日常生活道路の整備**
 - ・自転車専用道路や歩道などを優先して整備すべき
- **行政サービスの簡素化と利便性向上**
 - ・市民の窓口を民営化(コンビニを活用するなど)

テーマ1：浦和区の「現況」について

良くなったこと

●駅前整備

- ・浦和駅東口の駅前整備が進む

●環境意識の向上

- ・ゴミの分別排出・収集が一応の成果を挙げている

●文教都市としての面目躍如

- ・小学校・中学校等で理数系のレベルアップを感じる

●コミュニティに関する案内が充実

- ・市報などでの案内が増加
- ・一般市民が参加できる催しが増加

不足していること

●道路整備が不十分

- ・道路が狭い、でこぼこ、標識が分かりにくい

●緑が少ない

- ・街路樹、緑地公園などが少ない

●防犯対策が不十分

- ・街灯が少ない

●災害対策が不十分

- ・常設消火器が少ない等、火災対策に不安を感じる
- ・社会インフラ・備蓄などの面で、大規模災害対策に不安を感じる

●医療・福祉対応が不十分

- ・大病院は常に混雑している
- ・バスのバリアフリー化等、ハード面での高齢者対応が不十分
- ・ひっこみがちの高齢者へのフォロー等、ソフト面も不足
- ・保育所や放課後児童クラブが不足

●シャッター通りの増加(北浦和駅周辺ほか)

●まちの魅力不足

- ・若者にとって魅力があるか、女性にとって働きやすいか、総合的に住みやすいか
- ・ブランド力・知名度の面で、何かが足りない
- ・浦和レッズ、うなぎ、宿場町、ツールドフランス開催等でポテンシャルを有するものの、情報発信が不十分のため、全国的に知名度が低い

テーマ2・テーマ3：浦和区の「将来の姿」と近づくための「方法」

浦和区の「将来の姿」について

残したいもの

- **静かなまち**
 - ・住環境の維持
 - ・マンションの乱立は回避すべき
- **教育レベルの一層の向上**

10年後、20年後に期待

- **道路の安全対策を促進**
 - ・歩道と車道の分離など(特に通学路)
- **防災対策の推進**
 - ・緊急物資の備蓄や避難先の確保・周知徹底
 - ・地域住民の一致団結
- **病院同士の連携による混雑解消**
- **有名大学のサテライトキャンパス、公的機関(例：造幣局)等の誘致促進**

- **魅力的な都市への再設計**
 - ・「たまプラーザ」のようなまちを目指してほしい
 - ・緑化の推進(木は伐採せず、落ち葉はボランティアが掃除等)
 - ・若者がいきいきと暮らせる街、職(東京都も多い)と住(浦和区)のバランスがとれた街
 - ・景観デザインへの配慮
 - ・ストーリーのある街角や通りの創出
 - ・近隣都市の住民が憧れ、移住を希望する街

- **情報発信力の強化**
 - ・企画力のある人材を育成(市職員等)して情報発信力を向上
 - ・世間の注目を集めるイベントの開催(ツールドフランス等)
 - ・高度情報化社会に対応した情報発信
- **シルバー世代の活用と社会参加の促進**
 - ・シルバー世代のボランティア等により子育てを市全体で分担
 - ・シルバー世代に地域住民が配慮(生活用品の配達支援等)
 - ・スポーツ等に多くの世代や地域住民が参加し、シルバー世代の社会参加や生きがいづくりを図る

今後10年間で必要な取組

- **大災害(地震等)に向けた準備**
 - ・備蓄の推進
 - ・弱者(幼児・シニア等)へのサポート体制の強化
 - ・行政と地域住民が一体となった訓練
- **街並みの改善**
 - ・駅前そして県庁や市役所へつながる通りを重点的に整備
 - ・ストーリー性を持った街角や並木通りとして整備
- **高度情報化社会に対応する街**
 - ・シルバー世代がパソコンを使いこなせる街

- **ハード、ソフト両面で誘致を促進**
 - ・有名大学のサテライトキャンパスを誘致
 - ・スポーツ関連の大規模イベントを誘致(サッカー、ツールドフランス等)
- **地域コミュニティの強化**
 - ・行政主導によるコーディネーターの育成
 - ・ボランティアとしてシルバー世代の活用
 - ・専門知識を持った地域住民の活用
 - ・地域通貨を使った相互互助の推進
 - ・子育て支援の推進

●テーマ1 区の現況について

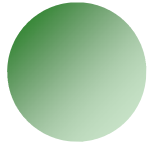
- ・10年先、20年先の浦和について考える良いきっかけとなった

●テーマ2 区の将来の姿について

- ・磨けば光る原石の街だと思っている。是非知恵を絞って、行政と市民と一緒に進む都市と言うだけでも良い街の条件になると思う。

●テーマ3 将来の姿に近づくための方法について

- ・住んでいる人々がもっと自分の意見を言える街になると良い(住民のアプローチ、コミュニティに参加しやすい体制づくり)
- ・地域住民とのコミュニケーションが不可欠
- ・色々な問題があることに気づいた



南区

<第1グループの皆さん>

石丸さん

高見さん

丸中さん

吉川さん

<第2グループの皆さん>

大沼さん

古口さん

新藤さん

守屋さん

テーマ1：南区の「現況」について

良くなったこと

●交通の利便性が向上

- ・武蔵浦和駅ができ、公共交通が充実した
- ・浦和駅東口の道路拡幅や第二産業道路が開通し、交通渋滞が緩和された
- ・第二産業道路の開通に伴い、南北の移動が容易になった

●街に活気が出た

- ・武蔵浦和駅周辺が活気づいた
- ・浦和駅東口の再開発により商業施設が立地し、買い物の利便性が高まった

●街灯が整備され安全性が向上

- ・LEDの街灯が整備されたことで明るくなり、夜間の歩行環境の安全性が向上した

●水害が減少

- ・従来、土地が低く浸水などの水害が多い地域であったが、整備が進み今では水害が減った

●景観が向上

- ・河川が整備された(藤右衛門川)
- ・緑があり、さまざまな生物が生息している
- ・気持ちよく散歩できる
- ・別所沼の水が浄化された

●地域での活動が増加

- ・団塊の世代が地域活動に参加するようになってきた
- ・別所沼は地域住民による「守る会」が清掃している

不足していること

●道路・交通が不便

- ・東西の幹線道路がなく、東西移動が不便である
- ・民間バスの運行本数が減り、移動が不便になった

●治安が悪化

- ・地域内で事件が発生するなど、治安が悪くなってきている

●災害時情報の周知方法が不十分

- ・自然災害が発生した際、防災無線での周知は、聞こえにくく聞き逃す可能性があり、周知方法としては不十分である
- ・HPの該当箇所にアクセスできない人や、携帯電話やPCなどの端末機がないと使えないため、HP以外の周知方法が必要である

●自然が減少

- ・地域全般的に自然・緑が減った(屋敷林、畑、植木畑、武蔵浦和周辺の田んぼが減った)
- ・農家が後継者不足により農地を手放す人が多いこともあり、畑等が道路や宅地に変わった
- ・植木屋が減った

●都市計画が不十分

- ・東西交通が不足しているため、街が東西で二分されている
- ・住宅のミニ開発が進み、雑然とした街になった
- ・開発を進める一方で、残すものは残していくことが重要である

●子育て層の外出環境の不足

- ・子ども連れで入れるレストランが少ない

●区の情報発信が不十分

- ・南区の行政の取り組みやサービス情報のPRが不足しており、バラバラにPRするなど効率性も悪い

●地域のつながりの継続が困難

- ・自治会が高齢化し後継者がいない
- ・子どもの成長に伴い、小学校区での親同士のつながりがなくなった

テーマ2：南区の「将来の姿」について

南区の「将来の姿」について

残したいもの

●いい意味での「田舎」

- ・屋敷林・寺社林、斜面林、農地などの自然
- ・神社・寺・長屋門などの遺産的資源

●災害時対策

- ・災害に強い街
- ・消防団

●別所沼

●伝統行事、及びそこから学ぶ生活の知恵

- ・伝統行事には、昔からの意味合いがあり、そこから得られる生活の知恵を活かす

●住民間の交流

- ・自治会や子供の学校を介したコミュニティ
- ・世代間のつながり

●孫と安心して歩ける歩道

●高齢者のパワー

- ・高齢者の社会参加

10年後、20年後に期待

●市民と行政とが協働している

- ・市民の「協働」に対する意識改革が図られている
- ・市民も役割分担する必要性は感じているが、何をやっていいかわからない。税金を払っていることで、サービスを受けて当たり前、行政が実施して当たり前、の意識を改める
- ・市民が行政の「手伝い」ではなく、「パートナー」の関係になる

●地域力が向上

- ・国内でも有数な、自治会や消防団など地域互助団体が活発な街になる
- ・地元住民が児童館等の運営に関わる

●安全なまち

- ・街の案内地図(名所、公共施設など)が充実し、高齢者も安心して散策でき、災害時には防災マップの代用とする

●東西南北に移動が容易な街

●都会と田舎・歴史が調和した街

●特徴ある区(アイデンティティ)

●住んでよかった街 No.1にしたい

●競馬場での花火大会の復活

テーマ3：南区の「将来の姿」に近づくための「方法」

今後10年間で必要な取組

●行政の情報をPRする

- ・行政との役割について市民の意識改革を促すためにも、市民への行政情報の周知が必要である
- ・情報の受け手が興味がない場合であっても興味を持てるように、知恵やノウハウを活用して魅力的なPRを行う
- ・かつての地域のコミュニティ仲間とつながり、会話を通じた情報収集を行う
- ・TVCMやJR駅広告など、コストがかかっても、市民の意識を変えるきっかけになるよう、行政活動の周知を集中的に実施する
- ・個人住宅の外壁を行政の掲示スペースとして活用する（「屋外広告条例」の要改正、個人住宅へ掲載料の支払い）
- ・公共工事の内容を仮囲いにイラストで表現するなど、工事現場でのPRを展開する
- ・市民参加型で、区の「広報改善プロジェクト」を実施（ポスター、放送、配布物 等）
- ・市役所への問い合わせは敷居が高く感じられるため、よろず相談受付窓口の設置し、だれもが問合せできるようにする

●地域の結びつきを強化

- ・自治会や消防団の参加者を募り、充実化させる
- ・団塊世代の知恵と時間を活用し、世代間交流を促進
- ・気軽に立ち寄ることができ、だれもが集まれる場所（サロン等）を設け、地域の知恵が集積し活動のきっかけづくりの場とする（現在の公民館では、気軽な使い方ができない。地域活動のやる気ある人が散見されるが、一人では行動に移せない。みんなが集まれるところで、仲間を募りアクションを起こせるようにする）

●道路・交通の充実化

- ・市民とともに、整備する道路の優先マップを作成
- ・安全な自転車交通対策を講じる

●自然・田舎の保存

- ・マスタープランの作成し、何を残すかを定める
- ・個別の地主と交渉し、農地を残すなど、自然や田舎らしさを残す

テーマ1：南区の「現況」について

良くなったこと

●交通の利便性が向上

- ・JR 埼京線が開通して便利になった

●若い世代の増加

- ・若い世代が増えて自治会などの世代交代が行われ活気が出てきた所もある

●子供の教育環境が良くなった

- ・子供が多くて活気がある。安全性も高い
- ・身近な小公園が多い

不足していること

●駅の整備

- ・人口増加の勢いに整備が追いついていない
- ・南浦和駅はエスカレーターが未整備、競馬場利用者などの喫煙マナー、ルールが未徹底、駐輪場が不足
- ・武蔵浦和駅には不便な改札口がある
- ・中浦和駅はエスカレーター不足

●東西の交通網に改善が必要

- ・東西交通は移動が不便

●景観の悪化

- ・大規模マンション開発(乱開発等)により地域の緑や、地域資源が減少している(地主が相続税対策のため土地を切り売りすることが原因か)

●イベントの工夫が必要

- ・夏祭り(浦和よさこい)は騒々しいだけになっている。花火大会は衰退。

●公共施設の維持管理の徹底・工夫

- ・公園の管理(別所沼等)
- ・歩道のタイル舗装の管理
- ・文化施設の運営

テーマ2・テーマ3：南区の「将来の姿」と近づくための「方法」

南区の「将来の姿」について

残したいもの

- 県営競馬場
- 都心へのアクセス容易性

● 個性に合わせた駅拠点の整備

- ・ 中浦和駅は生活拠点としての駅の役割を担ってほしい
- ・ 武蔵浦和駅は地域の中心駅としてのにぎわいのある駅になってほしい。レベルの高いホテルが導入されるとよい
- ・ 南浦和駅はトイレなど設備面での更新が必要
- ・ 各駅共通して「バリアフリー化」の推進が必要

10年後、20年後に期待

● 「より安全安心快適性の高いまち」の実現

- ・ 南区全体の将来像である『より安全安心快適性の高いまち』の実現

● 公共施設の強化と活用

- ・ 文化教養を高める施設を強化したい(美術館、コンサートホールなど)
- ・ 地域の残された唯一の大規模公共用地として県営競馬場の活用

● 東西交通の強化

- ・ 都心への通勤型南北交通から、今後は東西方向の生活交通の充実化へ
- ・ 生活に根ざした交通の充実へ(自転車専用レーン、歩道空間の充実、一方通行化など)

今後10年間で必要な取組

● 住民による高齢者のサポートと活用

- ・ 高齢者世帯への食事サポート(コミュニティレストランなど)など考えられるが課題(場所・主体・資金など)も多い
- ・ 高齢者から子供へ文化を伝承するプログラム(まちづくり大学なども活用)や、発表の場の創出を図る

● 行政による創意工夫

- ・ 住民が取り組めることには限界があるため、「将来の姿」を実現するためには行政による創意工夫が必要

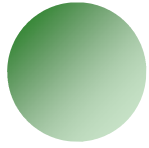
南区 その他「言い足りなかったこと」(アンケートより)

●テーマ1 区の現況について

・元々は何もない田園地帯に昭和35年に南浦和駅ができたところから始まった地域であること

●テーマ2 区の将来の姿について

・他の発展した街の真似はしない



緑 区

<第1グループの皆さん>

辻さん

吉田さん

渡邊さん

<第2グループの皆さん>

市川(久)さん

河津さん

千綿さん

寺下さん

テーマ1：緑区の「現況」について

良くなったこと

●自然保護の意識が向上

- ・見沼田圃は緑区の象徴
- ・見沼代用水沿いの斜面林
- ・緑区出身の武笠三は、見沼田圃を題材に唱歌「案山子」を作詞
- ・見沼田圃はもとは沼で、竜がいたという伝説がある
- ・見沼三原則により、自然が維持されてきた

●地産地消の推進

- ・地元で採れる農作物
- ・農地は減ってきているが、農業は引き続き行われている

不足していること

●道路・交通が不便

- ・電車、バスともに交通アクセスが不十分
- ・道路の整備が必要

●宅地開発増加への対応

●東浦和駅周辺の整備

- ・東浦和駅にショッピングセンターが欲しい
- ・東浦和駅前をにぎやかにしたい

●その他インフラの充実

- ・街灯、用水路の整備が必要
- ・コミュニティセンターが少ない
- ・歴史的施設の駐車場が足りない
- ・公園が少ない
- ・駅前にアーケードがあるとよい

●雇用・産業対策

- ・産業が少ない
- ・働く場所が乏しい

●見沼田圃のアピール

- ・見沼田圃の歴史、現状を知らない人が多い
- ・見沼田圃の竜を広報する
- ・緑区を全国に知らしめたい
- ・見沼田圃に関心を持ってもらうための工夫が足りない

●自然保護のための抑制策

- ・見沼田圃は緑区の核、目玉であり、現状維持するべきで、開発や施設をつくることは疑問
- ・緑＝森林等が急激に減少してきた
- ・夜空の星を見る見沼とするため街灯は最低限でよい

●少子化対策

●マナーやしつけの意識

- ・しつけ、教育への意識が希薄。昔ながらのしつけも必要
- ・駅近辺の歩きたばこに迷惑している

テーマ2：緑区の「将来の姿」について

緑区の「将来の姿」について

残したいもの

● **静かで良い環境**

- ・自然と親しめる環境
- ・緑を維持し、人が暮らす場所と自然とのバランスのとれた緑区

● **見沼田圃**

- ・見沼田圃がため池となり、水害は起こらない
- また、台風の被害や地震の被害が大きくなる

● **見沼の伝承、緑区の歴史を伝え続けたい**

10年後、20年後に期待

● **安心して暮らせる街**

- ・お年寄りが安全に通れる道路
- ・「歩く人」を基準にした交通
- ・交通死角のない街

● **生活インフラが整った街**

- ・東浦和駅周辺にコミュニティセンターがあるといい
- ・市立病院の塀を取り除くと交通の便がよくなる
- ・散歩、食事、会話ができる施設があるとよい
- ・道路を整備する

● **若者のための住環境と職場の整った街**

● **子供を育てられる街**

- ・子供の多い街
- ・子供の教育環境を充実させた街

● **清潔で明るい街**

● **活気のある街(生きがいを持つ)**

● **緑区の歴史を紹介できる街**

● **楽しく人生が送れ、一生涯住める街**

テーマ3：緑区の「将来の姿」に近づくための「方法」

今後10年間で必要な取組

●実情に合わせた道路整備の実施

- ・人口増加＝交通の増加を踏まえた信号の導入（駅前がスクランブル交差点になり、かえって渋滞が増加した）
- ・道路整備と区画整理を同時に進める
- ・道路の行き止まりをなくす
- ・見沼田圃と国道122号で3分割されているので、道路整備は重要

●安全・安心なまちづくり

- ・街灯を増やす
- ・道路の死角が多いので、区画整理を進め、角の家を取り除いて死角をなくすとよい
- ・防犯カメラを暗い裏道に設置する。費用や管理面から難しい場合はダミーでも効果がある。
- ・自治会で、危ない道のパトロールを行う。

●区の既存施設の活用促進策

- ・民家園、見沼ヘルシーランド、プラザイーストなど、良い施設が活用されていない。交通などアクセスや料金などを改善する必要

●見沼田圃の農作物の販売

- ・無農薬等特徴的な作物を地産地消するための委託販売等を行う
- ・休耕田の税率を上げる等の活用策を導入する

●商業施設とにぎわいの創出

- ・東浦和駅前には住居ばかりで商業施設がないため、商業施設を導入する。中規模のショッピングセンターがよい

●子供たちのコミュニティ意識の醸成

- ・子供たちにより、住んでいる地域の清掃を定期的実施するなどして、子供の頃からコミュニティの一員であるという意識を育成

緑区 第2グループ

テーマ1：緑区の「現況」について

*テーマ1に関しては、第1グループと共同で検討したため、第1グループと同じ内容。

良くなったこと

●自然保護の意識が向上

- ・見沼田圃は緑区の象徴
- ・見沼代用水沿いの斜面林
- ・緑区出身の武笠三は、見沼田圃を題材に唱歌「案山子」を作詞
- ・見沼田圃はもとは沼で、竜がいたという伝説がある
- ・見沼三原則により、自然が維持されてきた

●地産地消の推進

- ・地元で採れる農作物
- ・農地は減ってきているが、農業は引き続き行われている

不足していること

●道路・交通が不便

- ・電車、バスともに交通アクセスが不十分
- ・道路の整備が必要

●宅地開発増加への対応

●東浦和駅周辺の整備

- ・東浦和駅にショッピングセンターが欲しい
- ・東浦和駅前をにぎやかにしたい

●その他インフラの充実

- ・街灯、用水路の整備が必要
- ・コミュニティセンターが少ない
- ・歴史的施設の駐車場が足りない
- ・公園が少ない
- ・駅前にアーケードがあるとよい

●雇用・産業対策

- ・産業が少ない
- ・働く場所が乏しい

●見沼田圃のアピール

- ・見沼田圃の歴史、現状を知らない人が多い
- ・見沼田圃の竜を広報する
- ・緑区を全国に知らしめたい
- ・見沼田圃に関心を持ってもらうための工夫が足りない

●自然保護のための抑制策

- ・見沼田圃は緑区の核、目玉であり、現状維持するべきで、開発や施設をつくることは疑問
- ・緑＝森林等が急激に減少してきた
- ・夜空の星を見る見沼とするため街灯は最低限でよい

●少子化対策

●マナーやしつけの意識

- ・しつけ、教育への意識が希薄。昔ながらのしつけも必要
- ・駅近辺の歩きたばこに迷惑している

テーマ2：緑区の「将来の姿」について

緑区の「将来の姿」について

残したいもの

*本項目に関しては、第1グループと共同で検討したため、第1グループと同じ。

●静かで良い環境

- ・自然と親しめる環境
- ・緑を維持し、人が暮らす場所と自然とのバランスのとれた緑区

●見沼田圃

- ・見沼田圃がため池となり、水害は起こらない。また、台風の被害や地震の被害が大きくなる

●見沼の伝承、緑区の歴史を伝え続けたい

●子供のための施設や場の充実

- ・地域交流の場をつくる
- ・心と体を鍛える施設を作る(スポーツ、伝統武芸、カルチャースクール等)
- ・子供が夢を持てる場、夢を持つきっかけを与えてくれる、スポーツや場の創出
- ・いろいろな制約を受けずに自由に遊べる空間があるとよい

10年後、20年後に期待

●ハード、ソフト両面での公共施設充実

- ・各施設の有機的連携
- ・司書のいる図書館
- ・集会所、公民館の充実
- ・スポーツセンターや川口市環境センターのような温水プール施設などの充実

●災害への意識が高い地域

- ・災害に対する危機意識を喚起する

●イベント等による活性化

- ・祭り等を中心とした集落イベントの実施
- ・人が集まり、活気が感じられる街

●商業施設の充実

- ・東浦和駅にショッピングモールが欲しい

●緑豊かな街並みと歴史・史跡を大切に

- ・公園、文化、歴史の維持・保存
- ・桜並木など見沼代用水の活用
- ・緑多い環境
- ・歩道の上に緑の屋根があると良い

●若者が住みたい街

- ・若者が仕事を持ち、生活できる街
- ・若者が働ける場所が増えると良い

テーマ3：緑区の「将来の姿」に近づくための「方法」

今後10年間で必要な取組

●地域コミュニティの確立と活用

- ・地域コミュニティの相互協力、連携
- ・旗振り役の確立
- ・熟練者＝OBの経験の活用(学校との連携による講師の派遣、若者への技術の伝承)
- ・ゴミの処理を地域で考える(みんなで大崎処理場を現場見学)
- ・学校を開放し、スポーツ活動を行う
- ・自治会と行政が連携し、イベント、夏まつり、みこし、子供みこしを拡充

●法改正による活性化の押し

- ・市民目線を行政に反映し、また、これを受けた法改正などを通じて地域活性化を促進

●地産地消、地元販売

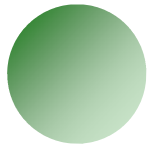
- ・見沼代用水沿い道路で農作物の販売
- ・見沼田圃の活用
- ・農家の区民が持ち寄って販売(直販)
- ・出店の設置(必要な場合は行政が協力)
- ・地場業者との連携

●情報発信の強化と工夫

- ・情報発信して盛り上げる
- ・インターネットやブログを通じて発信
- ・メッセージの場を作ることによって個人が頑張る
- ・緑区からの発信場所の提供(カルチャースクール、スポーツ、販売など)
- ・市報や区民による史跡めぐり等のガイドマップの作成

●共助の意識醸成と取り組み

- ・得意な人が不得意な人を助ける社会(IT環境であれば若者がシニアを助けるなど)



岩 槻 区

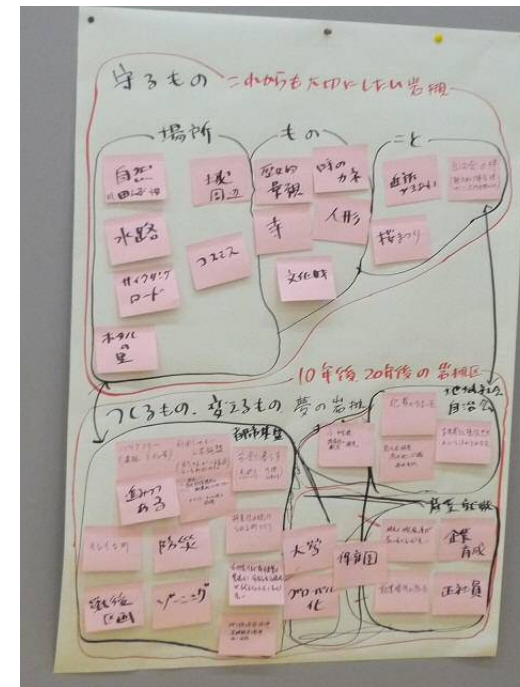
<グループの皆さん>

赤保さん

杉田さん

中根さん

早坂さん



テーマ1：岩槻区の「現況」について

良くなったこと

●豊かな自然の保全

- ・伝統的景観が残されている
- ・自然が豊富である

●生活環境の整備

- ・スポーツ施設が整備されている
- ・安全な歩道が整備されている

●区を代表する特産物

- ・ねぎをはじめとする農産物がある

●自治会活動、祭り、クラブ活動が活発

- ・花火大会や運動会などの多様なイベントが行われている

不足していること

●医療施設の整備(病院が不足)

- ・病院の待ち時間が長い

●利便性・安全性を確保した機能整備

- ・コミュニティバスの運行スケジュールの検討が必要
- ・道路及び自転車道路の整備
- ・大雨などの水害対策(下水対策も含む)

●いろんな世代のコミュニティ参加

- ・自治会への若者参加が少ない

テーマ2・テーマ3：岩槻区の「将来の姿」と近づくための「方法」

岩槻区の「将来の姿」について

残したいもの

●自然関連

- ・水路
- ・コスモス
- ・蛍の生息地

●文化財関連

- ・歴史的景観
- ・人形
- ・時の鐘

●地域の交流

- ・近所づきあい
- ・自治会の絆
- ・桜まつり

10年後、20年後に期待

●安心して暮らせる街

- ・保育園の充実
- ・高齢者と現役世代のバランス、協力
- ・防災設備・意識が徹底されている
- ・きれいなまち
- ・ゾーニングの徹底(区画の整理、バリアフリーに配慮した街づくり)

●若者にとっての街の魅力向上

- ・大学の誘致、設置
- ・小・中学校教員の補充
- ・企業育成(地域内での就労機会)
- ・グローバル化

今後10年間で必要な取組

●未来の子供たちのために、景観、安全、伝統、コミュニティを守る～いいコミュニティを大人がつくる～

- ・小さい頃から文化財を見る機会(環境)の醸成(街並み保存住民の会の発足など)
- ・子供が参加できるような自治会(仕組みづくりが重要)

●自転車活用策の推進

- ・自転車、電動カーのルール徹底
- ・インフラの整備(安全な自転車道整備)

●就労機会の向上

- ・商工会の職業情報の活用

●安全な街づくりの徹底

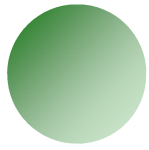
- ・防災井戸情報の開示
- ・区画防災の徹底
- ・街灯の設置

●**テーマ1 区の現況について**

- ・区、自治会などのコミュニティについて

●**テーマ2 区の将来の姿について**

- ・駅を中心とした東・西口交流について



平成24年度市民ワークショップ 検討結果

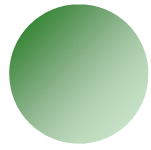
(5) 詳細編(第2回市民ワークショップ)



第2回 市民ワークショップ

○各行政分野における検討結果

第1章	環境・アメニティ	-----	116
第2章	健康・福祉	-----	126
第3章	教育・文化・スポーツ	-----	137
第4章	都市基盤・交通	-----	147
第5章	産業・経済	-----	156
第6章	安全・生活基盤	-----	164
第7章	交流・コミュニティ	-----	173



環境・アメニティ

<第1グループの皆さん>

須賀さん

高見さん

二敷さん

萬年さん

守屋さん

<第2グループの皆さん>

伊東さん

中森さん

丸中さん

三浦さん

吉田さん

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●環境教育の推進

- ・自然と人間とが離れてしまっている
- ・関係者間で問題意識を共有し事業者での温度差をなくす
- ・教育を充実させ、消費者教育と環境教育を結びつけて実施
- ・自然再生のイベントを行い地域コミュニティを再生
- ・行政・市民・事業者が連携できる場を設定
- ・環境の保全へ向けた仕組みづくりをする(ISO等)
- ・空気・水は他地域から流れてくるため国レベルでの取り組みが必要

●自動車依存型社会からの移行

- ・車が主導の社会になっている
- ・公共交通機関や自転車が使いにくい状況(道路、舗装、ルール、駐輪場)
- ・生活のし易さと自然環境の保護は必ずしも一致せず、相反する部分もある
- ・自転車の利用促進と同時に自転車と歩行者の分離を図り、場所によっては交通制限・乗り入れ制限を行う
- ・レンタサイクルの普及
- ・コミュニティバスの充実(路線網、回路拡大、土日運行、高齢者への割引券配布等)
- ・路面電車等の交通網を整備

●不法投棄対策

- ・空き地の不法投棄などは、住民による見守り等を進め、不法投棄できない環境をつくる

●再生可能エネルギーの導入

- ・地域分散型発電を進める
- ・公共施設等に積極的に再生可能エネルギー設備を導入し、戸建やマンションへの普及を促す
- ・さいたま市の地域特性(降雪が少なく太陽光発電の効率が良い等)を活かした再生可能エネルギーを導入
- ・再生可能エネルギーの活用は多大な費用負担や、施設整備に伴う環境破壊が懸念され、これら問題点の解決に取り組む

●循環システムの導入

- ・循環の仕組みを取り入れた地域として発展させる
- ・生ゴミ処理機などを普及させ、生ごみの堆肥化を進め、休耕地に利用し地産地消へつなげる

●次世代自動車の普及

- ・次世代自動車のPR不足、従来の車との違いが分かりにくい
- ・次世代自動車を使いやすい環境整備が必要

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●仕組みづくり

- ・ルールや組織体系等の大きな仕組みをつくる
- ・自然破壊等のチェックを行う

●環境教育の充実

- ・子どものころからの教育

●脱車依存型社会の取組

- ・レンタサイクルを整備
- ・市街地への車の乗り入れ制限や、自転車用道路の整備等により自転車を使いやすくする
- ・自転車等の利用ルールを守るよう、啓発活動を行う
- ・コミュニティバスなどのより使いやすい公共交通網の整備・充実

●環境配慮型企業への支援

- ・協力できる範囲で再生可能エネルギー関連設備(太陽光パネル等)の援助を行う
- ・電子化やメーリングリストを活用し、具体的な支援の範囲、金額、規模等をわかりやすく広報する

●情報発信の強化

- ・広報に目を引くような掲載方法で取組情報を周知
- ・施策実現に当たっての問題点を公表

●国への働きかけ

- ・リサイクル費用を負担するタイミングなど、家電リサイクル法の仕組みの不備を指摘し国に法改正を促す

「市民一人ひとりができること」

●環境負荷軽減の取組

- ・環境や健康に良い自転車や徒歩での移動を心掛ける
- ・電気・ガス・ガソリンなどの無駄なエネルギーを使わない

●自然との共生に対する理解

- ・子どもが自然に触れる中で事故があった時でも全て行政の責任にしない雰囲気づくり

●生活の中でのマナーを守る

●ゴミの発生抑制・再利用・再生利用の実践

- ・堆肥化を意識した生ごみの分別化
- ・日常生活を見直し、ゴミを出さないライフスタイル化を進める
- ・使えるものはリサイクルやフリーマーケットへ出す

●地域交流に関わる

- ・防犯活動等へ参加すると同時に、住民間で交流を図る

●再生可能エネルギーの活用

- ・自宅に太陽光パネルや蓄電池を設置する等、各家庭で再生可能エネルギー活用を図る

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？（続）

「企業ができること」

●環境に優しい取組

- ・建物へのグリーンカーテンや屋上緑化など、見た目にも環境に配慮している姿勢を見せる
- ・自家発電、エコカーの利用を進める
- ・環境に優しい取組みを全体で実施する
- ・生ごみの堆肥化プラントを立ち上げる

●環境活動への支援

- ・自然再生に資金を供出
- ・ボランティアとして活動にも参加

●企業方針の転換

- ・買い替えを勧めるのではなく、長く使える良い製品作りに取り組む

●環境技術の開発

- ・最新技術を開示し、行政へ技術活用を提案
- ・エコカーの一層の高性能化へ向けた開発

●業界として取組む

- ・コンビニのレジ袋の有料化を業界全体で進める

「集まればできそうなこと」

●地域で環境活動を実施

- ・エコに優しい街づくりを進める
- ・関係者が集まるシステムづくり(地域街づくり協議会による逆川清掃の取組事例もあり)
- ・活動拠点として、公民館等のコミュニケーションの取れる場を活用
- ・地域フリーマーケットを開催

●子どもの環境教育

- ・子ども会等で川や沼の清掃に参加
- ・自治会で自然再生等のイベントを子どもも巻き込んで実施

●農業振興

- ・空き地や駐車場等を家庭菜園ができる場所として提供する
- ・有機野菜を積極的に買う
- ・生ゴミの有効利用を図る(堆肥化など)

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●ゴミの発生抑制・再利用・再生利用の促進**

- ・ゴミは永久に増え続ける
- ・ゴミを分別するメリットが見えない
- ・不燃ごみは極力出さない
- ・ゴミを減らすと同時に分別し、再利用を促進
- ・ゴミやリサイクル品の行方が不透明
- ・生ごみの堆肥化がほとんどされていない
- ・家電や家具の再利用を促進
- ・生ごみを再利用
- ・情報を共有し、フリーマーケットやもったいない市を通じて再利用を促進
- ・道路舗装時のリサイクル物質の使用等を進める

●適正な廃棄物の処理

- ・最終処理の方法として、埋めるしかない
- ・最終処分場を確保しなければゴミがあふれる
- ・家電処理コストが高い
- ・家電や家具の廃棄物処理の簡素化が必要

●循環システムの推進

- ・雨水利用が進んでいない
- ・地産地消が進まない

●市民の環境意識を醸成

- ・モラルがある人とない人の二極化が進んでいる
- ・人々が環境に配慮する心を持ったモラルある街にする

●さいたま市の魅力化

- ・さいたま市のブランド化(例:YAさいたま市等)、さいたま市ならではの魅力をPR

●情報の共有化

- ・情報が共有化されていない

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●情報発信の強化

- ・ゴミ予報を出すなど、情報を公開し、市民と情報を共有
- ・ゴミに関して困っていることの情報公開する
- ・授産施設(身体障害者等に対し就労の場や技術取得を手助けする施設)などにおける取組やニーズ等の情報を積極的に広報する

●エネルギー等の地産地消

- ・地域給湯などにより廃棄物処理で出る余熱利用を進める
- ・市役所に井戸を設置

●水辺空間の整備

- ・水辺空間を整備

●農地の保全・活用

- ・休耕田や畑の行政による管理化(行政による買い上げ等)
- ・農地の市民利用の推進

●自然教育の充実

- ・こどもの自然教育の実施
- ・地元野菜の給食での利用

●魅力的な生活環境の整備

- ・さいたまのブランド化とあわせてその方向性とあわせて魅力的な生活ができる環境整備を行う

●環境配慮企業への支援

- ・企業内からの廃棄物排出はゼロにできるよう行政が支援する

「市民一人ひとりができること」

●ゴミの発生抑制・再利用・再生利用の実践

- ・分別を徹底する
- ・ゴミを減らす
- ・再資源ごみを利用する
- ・家具や電化製品の再利用を進める

●地産地消を実践

- ・家庭菜園で子どもが野菜を作る等の取組みを行う
- ・地元の野菜を地元で食べる
- ・旬産旬消を心掛ける

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？（続）

「企業ができること」

●技術の開発

- ・技術開発を進める
- ・ゴミ処理技術を開発する
- ・企業内からの廃棄物排出はゼロとする（再利用可能な廃棄物は除く）

●リサイクルの強化

- ・リサイクルの産業化を進める
- ・リサイクル可能なプロダクトデザインを進める

●農業振興

- ・大直売所を誘致
- ・移動販売を実施
- ・農作物のブランド化を進める（Cafeや定食屋を提供する）

●水資源の確保

- ・井戸の整備を進める

「集まればできそうなこと」

●みんなが一丸となって取り組む

- ・「行政」や「住民」の壁をなくし、問題・課題に取り組む（問題・課題への取組みがお互いの信頼を生む）

●地域コミュニティの活用

- ・公民館や自治会を活用した活動を行う

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●自然の保全**

- ・見沼田圃の保全にかかる費用負担が大きい
- ・川の水質が悪化
- ・個人や民間で、田畑、屋敷林、神社仏閣などをスムーズに継承できる税制などの仕組みづくりが必要
- ・自然として残すもの、開発しないところを決め、用途・開発の規制・制限が必要
- ・人間のみならず、他の生物の快適さも考慮した生態系保存に向けた意識の向上

●自然の活用

- ・休耕田を市民利用に開放するなどの利活用

●自然に親しむ環境づくり

- ・自然ある地域へのアクセスが不便（コミュニティバスの経路が不便、自転車移動が危険、駐輪場の不足など）
- ・環境教育の充実

●景観の保全

- ・軽井沢のような建物の色彩の規制があってもいい

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●自然を保全する仕組みづくり

- ・市民によるチェック(監視)可能な仕組みを取り入れたビジョン、プランの策定・提示
- ・自然環境の保全・再現についてのモデル地区設定、試験的・先行的事業の実施(他地域のお手本化)
- ・農地、屋敷林に対する租税負担の軽減支援(相続、固定資産税)
- ・保全、保護すべき自然に関する「開発・用途規制」

●自然を活用するための環境整備

- ・見沼田圃に関わるコミュニティの場づくり
- ・市民居住地域から自然環境豊かな地域へのアクセス向上(コミュニティバスの運行、駐輪場の設置等)

●水辺環境の整備

- ・芝川、逆川等の水辺環境の整備

●地域活動への支援

- ・市民活動の主体となりうる自治会に対して、メニューの充実化などの機能強化の支援

●市民の環境への関心を高める

- ・環境教育の場づくり
- ・環境に関する統括的な窓口の設置

●環境貢献の大きい企業の誘致活動

「市民一人ひとりができること」

●自然環境に関心をもつ

- ・自然環境に関する理解、勉強を進める
- ・残された自然に目を向ける意識付け

●ゴミの削減

- ・環境を悪化させる自ら排出するゴミの削減

●身近な自然を保全

- ・人家敷地内の樹木の保護保全

●環境活動への参加

- ・行政のビジョン・プランの進捗を主体的にチェック・監視
- ・自治会等の場を通じた環境活動の活性化

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組みれば良い？（続）

「企業ができること」

●環境改善活動への貢献

- ・排出廃棄物の削減
- ・屋上緑化
- ・JRによる下草刈り
- ・農業振興、農地保全の組織化支援

●ISO14001の取得及び取組

●環境教育への支援

- ・論文募集などを通じた市民の環境教育へのバックアップ

●地域活動への支援

- ・地域の美化活動へゴミ袋を提供するなどの支援

「集まればできそうなこと」

●ランドデザインづくり

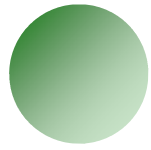
- ・開発と保全のランドデザインづくり
- ・自然環境についての議論の場の設置

●清掃活動

- ・市民・行政・企業の協力による清掃活動

●自然の再生

- ・休耕田畑を市民農園化などに活用
- ・「鎮守の杜」をもつ神社仏閣を維持し活性化させる



健康・福祉

<第1グループの皆さん>

小林(玲)さん

沢本さん

辻さん

野田さん

清家さん

根本さん

<第2グループの皆さん>

加賀谷さん

貴田さん

小林(公)さん

細田さん

澤井さん

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●子育て世代に最も予算を投じる政策の実施

- ・理想論だけではなく、目に見える支援を実施する
- ・義務教育期間中の給食費を無料化にしてほしい
- ・高齢出産時に障害児が増えることへの対応(養育費援助等)

●施設の充実

- ・公園を充実させるなど、子どもの安全な遊び場を確保
- ・通学路の整備と安全確保が必要
- ・子ども達の学習に役立つ施設の整備
- ・「子育て支援センターうらわ」のような施設を各駅に設置
- ・既存の公共施設の仕組み、内容に関する広報の充実

●保育所、幼稚園の充実

- ・夜間も見てもらえる24時間対応の保育所を駅前に設置
- ・保育園に入れるための点数制度の改善
- ・年度の途中で入園できるような柔軟な制度の導入
- ・待遇を良くし、保育士の数を増やす
- ・規制緩和により保育所の数を増やす
- ・幼稚園の延長保育の実施

●医療環境の充実

- ・小児科、産婦人科が減少している
- ・15歳までの医療費無料化をこれからも継続してほしい
- ・病院を指定し必ず診てもらえるなど、夜間医療の充実
- ・高齢出産の増加に対応し、不妊治療費等をサポート

●いじめ、虐待対策の強化

- ・近所づきあいの希薄化で声をかけていいかわからない
- ・育児アドバイスにより、ノイローゼ、虐待を起こさせない
- ・発見した場合の通報システムの明確化

●地域で支える子育て

- ・放課後の学校を開放し、子ども達が遊べる場とする
- ・地域の高齢者が子ども達と触れ合う場を設置する
- ・子育てを終えた人が子育て中の人に協力する
- ・「あいうえお」教育の徹底
(あいさつ、いじめない、うそをつかない、えがお、おもいやり)

●学区の設定方法の改善

- ・同じマンションでも棟が異なると学区を変える現在の小学校区の設定方法の改善

●教員の質の向上

- ・教員の質を高め、人間形成を中心にした教育の実施

●教育都市を宣言

●治安の確保

●自立した市民

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●施設の整備

- ・公園、道路の整備
- ・子育て施設の整備

●制度等の見直し

- ・保育所に預ける際の点数の改善
- ・保育士の待遇改善
- ・小学校の学区の割り振りの検討
- ・放課後の校庭の解放
- ・公共施設、虐待等の通報制度、子育て医療費無料化制度などに関する情報の周知を強化（広報のあり方の見直し）

「市民一人ひとりができること」

●地域の子ども、子育てに関わる

- ・地域の子どもを見守る
- ・地域の子どもと遊ぶ、昔の遊びを教える
- ・地域の子育て世代の人々に協力する

●意識の改善

- ・子育て中の人に協力する等、子育てについての意識を変える

「企業ができること」

●企業体質の改善

- ・企業の体質を子育てを支援する体質に改善する

●制度の改善

- ・育児休暇を充実させる
- ・育児休暇後に正社員で復帰できる制度の確立
- ・正社員と派遣社員の子育てに係る待遇格差をなくす

「集まればできそうなこと」

●地域ぐるみで子どもを育てる

- ・子育てを終了した世代（高齢者）が、地域の子育てを見守る
- ・子ども達と遊ぶ、昔の遊びを教える
- ・交通安全をはじめ、子ども達の安全を見守る
- ・子ども達が人と関わっていく受け皿を作る

●地域を構成する各世代が自立する

- ・子育て世代は自己責任で高齢者に預け、子どもと関わる高齢者への責任追及はしない
- ・資格でしげらず、必要な資格を知恵で乗り越えるような柔軟な姿勢で地域に関わる

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●自由に移動できる環境整備**

- ・車いすや荷台利用にも耐えられるエレベーターの設置など、住宅内の移動設備の整備が必要
- ・交通機関を充実させ、地域間の偏りを縮小
- ・交通ルールの徹底化(特に自転車事故の撲滅を目指す)
- ・財政的にも無理のない施設運営の検討

●近隣住民への関心・関与の仕方

- ・引きこもり防止などの早めの対策が必要
- ・ご近所づきあいの仕方の変化、生活パターンの変化、声のかけづらさがあり、対応に戸惑う

●公民館などの地域交流の場の気軽な活用

- ・高齢者のボランティアへの参加を促進し、知識・経験豊富な高齢者を活用
- ・大学との連携による講座数の充実化や学生など他世代と受講できる講座を設けるなど、生涯学習の機会を促進

●医療環境の整備

- ・病院不足に伴う既設病院の待ち時間を解消

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●ふれあい、交流・語らいの場の整備

- ・廃校等の公共施設の活用
- ・施設やイベントの存在を十分に周知する(どこで、何をやっているのかなど、広報の徹底)
- ・高齢者が気軽に相談できる場の確保(近隣トラブルの仲裁、孤立・引きこもり防止)

●健康、病氣予防策

- ・体力アップ施設の拡充
- ・在宅ケア、ホームドクターの活用の推進、参画する病院の呼びかけ
- ・地域毎の病院ランキング作成(作成したランキングは市民がチェック)

●自由に移動できる環境の整備

- ・歩道等の安全な道路整備
- ・ニーズにあった交通網の整備(利用状況等、実態の把握)
- ・マンション・アパートなどの集合住宅のエレベーターの設置状況の確認及び整備

「市民一人ひとりができること」

●今ある活動の継続による交流の維持

- ・回覧板の手渡しなど、近所同士の声掛けを徹底

●健康、病氣予防策

- ・行政の作成した地域毎の病院ランキングのチェック

「企業ができること」

●「生きがい作り」のための積極的な社会参加の機会の確保

- ・知識や経験を持った高齢者の積極的な雇用(ボランティア、パートなども含む)

●買い物環境の整備

- ・定期的な移動マーケットの運営

●健康、病氣予防策

- ・病院の在宅ケアの参画

「集まればできそうなこと」

●「小さなまとまり」で日常だけでなく、有事の時にも助け合えるつながりを持つ

- ・小規模サークル活動(共通の趣味を持った人が有志の個人宅で活動＝公共的なものでなく、私的な集まり)を通じて、継続的なつながりを確保

- ・老人会などの地域の活動に積極的に参加(通学路の見守りなど)

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●就労施設などの施設整備

- ・身体障害者用の公共施設、就労施設のバリアフリーの推進
- ・知的障害者施設を増やし、待機障害者を減らす
- ・財政的にも無理のない施設運営の検討

●就労環境の整備

- ・雇用の確保、作業範囲の拡大、賃金格差の是正（職業訓練や機能訓練の機会の提供）
- ・就労・雇用支援策導入の際の手続きの簡素化（企業努力へのサポート）

●手助けのしづらい状況、助けを求められにくい環境の改善

- ・障害への理解、対処方法を学ぶ機会を設ける

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

- 就労等の社会参画への支援**
 - ・就労訓練・教育施設を整備
- 経済面での支援**
 - ・医療費や訓練・教育費用への助成
- 協力企業への支援**
 - ・障害者雇用企業の表彰と公表（優良企業ランキングなどで周知し、企業努力を支援）
- 自由に移動できる環境の整備**
 - ・歩道等の安全な道路整備
 - ・マンション・アパートなどの集合住宅のエレベーターの設置状況の確認及び整備

「市民一人ひとりができること」

- 障害への理解（心のバリアをとる）**
 - ・ボランティアへの参加（点数化により継続的な参加へつなげる）
- 障害者雇用企業への支援**
 - ・各企業の取組に関心を持つ（企業のやる気、ステータスを高めることに貢献）

「企業ができること」

- 技術支援による環境整備**
 - ・空地に太陽光発電施設を整備し、その電力を電動車いすや街灯等に利用
 - ・バリアフリーマンションを整備

「集まればできそうなこと」

- 日ごろの交流により、助けが必要な時に声をかけあえる環境づくり**
 - ・近所などで日ごろから声を掛け合い、お互いに手助けしやすい信頼関係を構築＝相互に理解し合う

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」～どういう人生・生活を過ごしたいですか？～**●健康な生活**

- ・健康を維持し、元気な生活を過ごしたい
- ・最期まで親族の世話にならずに生きたい

●長生きする

- ・長生きしたい(22世紀まで生きてみたい)

●前向きな生活

- ・明るく楽しい人生を過ごしたい
- ・人に好かれる高齢者になりたい
- ・穏やかに過ごしたい
- ・自分らしく、あるがままに生きたい
- ・か(感動する)、き(興味をもつ)、く(工夫する)、け(健康)、こ(恋をする)な生活を過ごしたい

●安心な生活

- ・安心・安全な生活を過ごしたい
- ・不安のない生活を過ごしたい

●生きがいのある生活

- ・生きがいを感じられる生活を過ごしたい
- ・仕事面で生涯現役でいたい
- ・ライフワークのある人生を過ごしたい
- ・今日行く(教育)ところがあり、今日用(教養)がある生活を過ごしたい
- ・社会貢献や地域貢献など、人の役に立てる人生を過ごしたい

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●医療体制の充実

- ・救急車の無料化の見直し(救急車の有料化や、救急車使用後に緊急性を査定し緊急度に応じた料金徴収など)
- ・救急車での医療行為の拡大
- ・救急患者がたらい回しにならないような救急医療体制を整備
- ・タクシーが救急車の一部を担える仕組みづくり
- ・医者を増やす
- ・区役所などで常時AEDの使い方指導を行う
- ・大学との連携などによる予防医療の充実化
- ・健診制度の継続

●災害時対策の充実

- ・井戸を災害時に地域の水源として使える仕組みづくり

●食の安全性の確保

- ・食品の不正表示に対して罰則制度を導入
- ・加工品のトレーサビリティの制度化(原材料の産地表示化)
- ・地産地消の推進など、学校等での給食の安全性を確保

●健康づくりの推進

- ・健康づくりに関する企画・情報を文面以外の方法で積極的にPR
- ・マラソン大会やウォーキング大会など、健康関連イベントを開催

●自殺者対策の取組みの充実

- ・相談窓口を拡大

●心安らぐ憩いの空間の創出

- ・川下りや花畑整備など、見沼代用水を活用した憩いの空間を創出

「市民一人ひとりができること」

●自分の健康管理を行う

- ・自己管理を怠らない(食生活、歩く・泳ぐなどの適度な運動の継続、健診を受ける、気力の維持など)
- ・ラジオ体操への参加(ラジオ体操及び往復の歩行)

●積極的に人とのつながりをもつ

- ・体調が悪い時などの万が一の時に頼れる友達や近隣の人とのつながりをもつ
- ・イベントに参加するなど、多くの出会いを通じて、人との関わりをもつ
- ・人と対話をする
- ・集会や健康づくりの場などに、誘い合って参加する
- ・子どもの預かりなど、若い世帯の生活を近所の高齢者が手助けする
- ・感動と喜びを感じる

●災害時対策への協力

- ・井戸所有者は、災害時に地域への水供給に協力(仕組みづくりへの賛同)

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組みれば良い？（続）

「企業ができること」

●救急医療への協力

- ・タクシーが救急車の一部を担う仕組みづくりに協力

●健康づくりの推進

- ・マラソン大会やウォーキング大会など、健康関連イベントを開催

●食の安全性の確保

- ・学校等での給食の安全性を確保
- ・加工品の原材料の産地表示化など、トレーサビリティを拡大

●地元事業の強化

- ・市民が安心・安定した生活ができるよう、雇用の場となる地元企業の強化

●自殺者対策の取組みの充実

- ・自殺者対策の取組みの充実

「集まればできそうなこと」

●集まる場づくり

- ・人と話すことで気力も出ることから、人と対話できる場を、高齢者の徒歩圏内に設ける

●健康づくりの推進

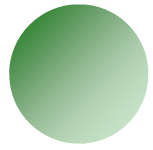
- ・近所でラジオ体操を実施（コミュニケーションも形成できる）
- ・公団住宅の集会所などを活用し、定期的に軽く運動する
- ・老人会での健康づくり

●**高齢者の移動環境について**

・高齢者が自由に移動できるシステムを至急実現してほしい。

●**安心・安全について**

・安心・安全を掲げているが、本当に安心・安全なさいたま市なのか。痴漢電車で有名な埼京線(痴漢No.1電車)と数年前から言われ続けている。女性専用電車があるが、利用時間帯でも男性が入ってくる。交通の治安面や防犯面においても早急に対策を考えてほしい。



教育・文化・スポーツ

<第1グループの皆さん>

江原さん

佐川さん

早坂さん

原さん

<第2グループの皆さん>

徳山さん

檜垣さん

渡邊さん

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●教育格差の是正**

- ・公立の小中一貫校が増え、地元の学校に通えるようになるとうい
- ・市内の教育レベルを標準化するなど、経済的、地理的、地域的な差から生じる教育の格差がなくなるとよい

●人間力を高める**●海外でも通用する人材を育成**

- ・自分の意見を述べる授業が多くなるとよい
- ・「知識」より「考える」、「発表する(人に伝える)」力を養う
- ・みんなが同じではないことを、小さい頃から理解する(異文化交流)
 - ・多様な言語でのコミュニケーション
 - ・インターナショナルスクールとの交流
 - ・国内の他地域の小中学生との交流
 - ・産業の街への修学旅行
- (競争心を養う)
 - ・区単位で競える行事の実施
- ・社会の広さや、社会感を理解できるようにする
- ・高齢者による講義や地域産業の体験学習など、地域教育の実施

●教育における家庭の役割を重視

- ・しつけ、感謝、自立心、礼儀、家事分担作業を子どもに教える

●教員の質の向上

- ・専門性のある教員の任用
- ・人格や人間性の優れた教員が必要
- ・アシスタントティーチャーの増員など、忙しすぎる教員の負担を軽減
- ・子どもと向き合える教員が必要
- ・魅力ある授業を実施できる教員が必要

●情報を学校と家庭が共有

- ・父親が教育に関わりやすい状況をつくること。そのため情報が必要
- ・地域と小中学校・教育とのつながりを強めるなど、地域コミュニティを充実

●学校施設の活用・改善

- ・空き教室等の活用
- ・放課後の学校施設の地域利用
- ・地域の大学施設の活用
- ・児童・生徒に個別ロッカーを用意
- ・トイレなど衛生環境を改善

●子どもたちの自由な時間を増やす

- ・小学生の自由な時間を増やす(学校滞在時間の短縮、塾通いの抑制等)

●高校生の居場所づくり

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●教員の質の向上

- ・教員の質の向上(知識面、人格面)
- ・教員数を増やす

●教員の負担軽減

- ・クレーム窓口を設け、弁護士と連携した対応

●設備の充実

- ・パソコン等の設備の充実

●学校に関する情報発信

- ・教育の施策や学校での取組、安心に関する情報などを市民に積極的に発信
- ・学校で生じている問題等の情報を保護者と市民に発信
(個別の問題ではなく、地域全体の問題として捉える。いじめ対策、客観的な視点が入ることでクレーム対応につながる)

●様々な体験の機会を創出

- ・人形づくりの現場など地元の伝統産業を見学する機会を創出
- ・歴史・文化財の見学、講義を受ける機会を創出
- ・大学や熟練講師を活用した授業、講義を実施
- ・企業に職業体験実施の協力を呼びかける
- ・土曜日に学校で、活動(例:塾)ができるようにする
- ・さまざまな学年と一緒に過ごす機会を創出
- ・空いている学校施設の活用

「市民一人ひとりができること」

【市民】

●教育現場と関わりを持つ

- ・高齢者をはじめ地域の人々が、知識・知恵、ノウハウ、経験等を子どもたちに伝える

●学校の問題を共有

- ・学校で生じている問題等を地域全体の問題として捉える

【保護者】

●父親の積極的な参加

- ・地域コミュニティの行事への参加を通じて、徐々に教育への関わりを多くしていく
- ・夫婦間で教育方針を話し合い、再確認する
(母親まかせにしない)
- ・教育施策、学校での取組等の情報に関心を持つ

●何でも学校の責任にしない

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？（続）

「企業ができること」

●子どもたちに多様な体験の場を提供

- ・スポーツ教室を増やす
- ・職業体験の拡大
- ・地元の商店街や企業が職業体験を実施
- ・製造現場を見せる機会(子どもから大人まで参加できるもの)を設ける
- ・工場見学の実施
- ・企業活動をPRし、多様な職業があることや働くことの意識の醸成を図る

●土曜チャレンジスクールへの参加

- ・土曜チャレンジスクールに民間企業も参加

●青少年育成への協力

- ・プロが青少年に教える
- ・青少年にスポットを当てたイベントの実施

「集まればできそうなこと」

●学校と地域のコミュニケーションを図る

- ・文化祭等を通じて、学校と地域がコミュニケーションを図る
- ・教育に関するお父さんたちの活動を市内全域で実施し、参加する

●学校の問題を地域全体の問題として捉える

- ・学校で生じている問題等を地域全体の問題として捉え、客観的な視点で教育に関わっていく

●多様な体験の場・機会の創出

- ・子どもたちにさまざまな体験をさせる機会、場の創出
- ・小さな頃から国際交流のできる機会・場の創出

●学校施設の環境改善

- ・PTA等が学校の施設環境を年に1回程度、点検・見回る

●青少年の育成

- ・青少年が活動を通じてコミュニケーション力を養えるよう、自ら企画・運営できる機会をつくる

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●情報発信の改善

- ・生涯学習に関する情報が掲載されている広報紙が面白くなく、読む気がしない
- ・参加をしたくても直前の情報発信だと予定が合わないので早めの情報発信が必要
- ・宣伝の充実

●プログラムの充実

- ・多様な講座がほしい(やっている内容が少ない)
- ・地域がらみのイベントがほしい
- ・高齢化に対応した「ジイ育」(赤ん坊の育て方や3歳～5歳の育児)を希望
- ・ツタンカーメン展のような市立博物館の内容の充実化

●参加のための仕組みの構築

- ・講座等は初めてだと参加しにくい
- ・既存の集まりは既にコミュニティが出来上がっていて参加しにくい
- ・参加・加入方法が分かりにくい
- ・参加のためのきっかけづくりとなる場が必要
- ・教える側にとっても全てボランティア(無料)では続かない
- ・対価(気持ち程度で十分)の支払いシステムの構築が必要
- ・活動のための後押しが必要

●場所の活用

- ・小学校など、地域の人を使いやすい学校施設を活用
- ・駅や学校など、人が多く集まる場所を利用した機会の創出
- ・中高生に利用される公民館づくりが必要
- ・公民館以外の発表の場の確保
- ・今ある施設の充実

●市内人材の活用

- ・街の専門家の発掘が必要
- ・高齢者の活用や得意技を持った人にそれらを紹介してもらうことなどができるとよい
- ・市民参加型で「こんな人にこんなことをしてもらいたい」、「自分はこんなことができる」、といったニーズとウォンツのマッチングが必要
- ・ボランティアをまとめる役割が必要
- ・武道家が沢山いることから市民に武道を教え、さいたま市民はみな武道の心得があるような取組がしたい

●多様な機会の活用

- ・高齢者と若い世代の交流の機会となる子供育成プログラムなどを、現行のプログラムに取り入れる
- ・様々なイベントを一つにまとめて魅力を高める
- ・学校での体験授業の充実化や、プロが見せる授業など、多様な体験・機会を提供
- ・企業なども含め参加機会を高める取組が必要
- ・発表会などの平日開催により、平日休みの人の参加機会を創出

●豊富な講座メニューがウリのさいたま市

●地域密着型の生涯学習の場の創出

●コミュニケーションのとれたまち

●市民一人一人が参加し人を大事にする教育文化のまち

●心が豊かな市民が住むまち

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●人材を引っ張り上げることが必要

- ・今回のようなワークショップを活用して、やる気のある人や参加者を対象に具体化を図る
- ・ワークショップを活用した市と市民の連携

●人材登録など仕組みの構築

- ・市民からの「こんな事が出来る」といった情報を発信できる仕組みを整備

●意見の言える場の整備

- ・アイデア出しに市民を活用

●活動団体や企業との橋渡し

- ・既存活動主体との連携の橋渡し
- ・例えば駅の掲示板を利用した情報発信(JRとの連携)
- ・試乗会などの企業イベントを行政が仲介し、そこに集まった人に生涯学習機会等の情報を提供

●助成金の活用

- ・各種助成金の積極的活用による事業規模の拡大

●講師等の有料化

●ダイレクトメールの活用

- ・今回のワークショップのように、封書で本人宛に市から参加募集の連絡が来ると広報紙などに比べてまじめに対応する

「市民一人ひとりができること」

●壁新聞などの貼り出し

- ・お母さん方に意見を出してもらい、利用者目線の情報を発信する

●インターネットの活用

「企業ができること」

●ビジネスと生涯学習機会の連携

- ・場所の提供

●埼玉大学による公開講座の実施

「集まればできそうなこと」

●ワークショップを活用した生涯学習のきっかけづくり

●ポイント制の導入

- ・講師のボランティア対価として、また参加した人のきっかけづくりとしてポイント制を導入

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●情報発信方法の改善

・スポーツ関連の活動をしている人は多く、施設も充実しているが、活動場所や主催者などの情報発信方法、PRの改善が必要

●行政の取組と市民ニーズとのミスマッチの縮小・解消

・行政の取組と市民ニーズとのミスマッチの縮小・解消が必要

●誰もが参加できるスポーツの場の創出

- ・高齢者が参加できるスポーツがあるとよい
- ・女の子のサッカー一部があるとよい

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●情報発信方法を工夫

- ・関心の低い人も見るような情報発信を行う
- ・駅などの人目につくところに広告を出すなど、効果的な情報発信を行う
- ・スポーツイベント等に子どもを招待(その結果、親も観に来る)
- ・他の自治体とスポーツに関する情報交流

●スポーツ施設の魅力向上

- ・多世代や様々なレベルの人が使えるトレーニング・センターの整備
- ・設備やインストラクターの充実
- ・市民体育館の利便性の向上(場所・開館時間)
- ・学校の体育館を開放

●サイクリング環境を整備

- ・サイクリングロードの整備

●世界的なスポーツイベントを誘致

- ・オリンピック関連種目の大会の誘致(代表選考会など)
- ・ツール・ド・フランスの誘致

●女子のサッカークラブを創設

- ・市民クラブとして、大宮、浦和のレディースをつくる

「企業ができること」

●女子のサッカークラブを創設

- ・市民クラブとして、大宮、浦和のレディースをつくる

「市民一人ひとりができること」

●イベントへの参加

- ・スポーツ関連イベントに参加する

●行政サービスへの対価の支払い

- ・行政のサービス向上に対して、相当の対価を支払う

●地域コミュニティの充実

- ・自治会活動を充実させて、新住民を巻き込む

「集まればできそうなこと」

●イベントへの参加

- ・スポーツ関連イベントに参加する

●行政サービスへの対価の支払い

- ・行政のサービス向上に対して、相当の対価を支払う

●地域コミュニティの充実

- ・自治会活動を充実させて、新住民を巻き込む

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●魅力の創出

・文化関連で目玉となる魅力があるとよい

●情報発信方法の改善

・文化関連の活動をしている人は多く、施設も充実しているが、活動場所や主催者などの情報発信方法、PRの改善が必要

●行政の取組と市民ニーズとのミスマッチの縮小・解消

・行政の取組と市民ニーズとのミスマッチの縮小・解消が必要

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●文化教育の充実

- ・江戸と埼玉の歴史のつながりを教える
- ・小学校からお茶やお琴などの文化教育を導入する

●市民参加型のイベントを開催

- ・駅コンサートやロビーコンサートなど、市民が気軽に参加できるイベントを開催する
- ・お祭りの開催と魅力向上を図る

●情報発信方法を工夫

- ・関心の低い人も見るような情報発信を行う
- ・駅などの人目につくところに広告を出すなど、効果的な情報発信を行う
- ・文化イベント等に子どもを招待(その結果、親も観に来る)
- ・他の自治体と文化に関する情報交流

●情報案内を充実

- ・文化マップを作る

●文化資料のデータベース化

- ・市の文化的な資料をきれいにデータ化する

「市民一人ひとりができること」

●イベントへの参加

- ・文化関連イベントに参加する

●地元の歴史に興味を持つ

●子どもに文化を伝承

- ・学校などで文化を教える

「集まればできそうなこと」

●イベントへの参加

- ・文化関連イベントに参加する

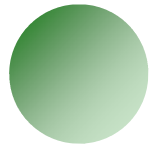
●地元の歴史に興味を持つ

●子どもに文化を伝承

- ・学校などで文化を教える

「企業ができること」

特になし



都市基盤・交通

<第1グループの皆さん>

家田さん

古口さん

島村さん

本郷さん

<第2グループの皆さん>

上田さん

大沼さん

小澤(良)さん

中村さん

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●計画性のある都市開発の推進**

- ・市街地が雑然としている
(建物の高さや色に統一感がない)
- ・ミニ開発が続いたことで、まちの統一感がなくなっている
- ・公園が少ない
- ・まちのデザイン面での向上を図る必要がある

●緑の保全

- ・開発のたびに緑が減少している

●自転車利用の安全教育

- ・自転車の数が多く、マナーが低下している
- ・自転車交通は自転車、歩行者、自動車のどの側面から見ても、危険が多い

●道路環境の改善

- ・生活道路(橋も含め)は段差が多い
(特に歩道はデコボコが多い)
- ・バリアフリー化をベースとした、ユニバーサルデザインにも配慮した道路整備を推進する必要がある

●治安の確保

- ・交番が少ない

●住みよいまちの実現

- ・日常生活の利便性の向上を図る必要がある。
- ・将来の人口減少に向けて、安全・安心など住みよさを追求したまちづくりが必要である

●ICT環境の強化

- ・行政のICTに関するセキュリティが弱い

●市民生活に役に立つデータの活用

- ・高齢者の見守りなど、行政の把握しているデータが市民生活に活用しきれていない

●将来も「選ばれる」まちになる

- ・市外の人から、選ばれるまちになる

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

- 市街地の質の向上
 - ・地域のふれあいの場として機能するポケットパークの整備
 - ・景観ルールの策定と厳格な運用の実施
 - ・建物の新築ではなく、再利用や減築を行政が後押しして進める
- 緑の空間の保全・創出
 - ・開発において、緑を残す・作ることを義務付けるなどの、緑の保全ルールづくり
 - ・残す樹木の指定
 - ・電線地中化と電柱跡への街路樹の植樹
 - ・公園整備の推進
 - ・緑のオーナー制度の導入
 - ・壁面・屋上緑化の推進に向け、「緑化減税」などのインセンティブづくり
 - ・川と川をつなぐ遊歩道の整備
- 自転車利用環境の整備
 - ・駐輪場の整備
 - ・公共交通へ誘導するなど、自転車削減の促進
 - ・幹線道路における自転車専用レーンの設置
 - ・生活道路の一方通行化
- 生活道路の整備
 - ・生活道路の一方通行化
 - ・歩道のフラット化（デコボコの解消）
 - ・橋の勾配のフラット化
 - ・道路の材料に再利用素材を活用
- ICT基盤の整備
 - ・行政のデータシステムの見直し
 - ・行政のデータセンターの整備
 - ・セキュリティシステムの向上
 - ・高齢者を見守るための行政データの活用
 - ・防災・防犯情報の共有化
 - ・市ホームページにおいて、市の見どころを前面に出す
 - ・Wi-Fi環境の向上
- 低炭素・環境への取り組み
 - ・電気自動車の充電スポットの整備
 - ・ゴミ焼却場での発電
 - ・民間の省エネ・自然エネルギー活用への取り組みに対する、カーボンオフセット減税等のインセンティブの付与
 - ・公共施設や遊休地を活用した太陽光発電

「市民一人ひとりができること」

- 自転車マナーの向上
 - ・自転車マナーの徹底
 - ・混雑緩和のために15分早く家を出る
- ICT基盤の強化
 - ・個人のセキュリティ意識の向上
 - ・子ども・高齢者向けのパソコン利用教室の活用
- 低炭素化への貢献
 - ・住宅へのジオシステムの導入（行政の支援が必要）

「企業ができること」

- 低炭素化への取組
 - ・省エネ塗装の推進（行政の支援が必要）

「集まればできそうなこと」

- 市街地の質の向上
 - ・地区計画の策定する際は、自治会をはじめ地域住民が自分たちの地域の問題であることを認識し、積極的に意見を出す

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●都市整備のあり方の検討

- ・点や線の開発ではなく、面としてつないでいくことが必要
- ・税金体系含めて、都市整備のあり方を考えることが必要
- ・優先順位を決め、集中投資をしていかないと都心地区の基盤整備はなかなか進まない。税金を上げる以外の対応が必要
- ・優先順位で都市整備を進めるには、地元との熟議が必要（行政には、何年も同じポジションで熟練の専門職員が必要）
- ・これからの都市整備は、高齢化、人口減少を前提に進めることが必要

●都市・副都心の位置付け・性格付けの明確化

- ・都心-副都心という分けや役割が不明確
- ・各地区の特徴が曖昧
- ・大宮駅周辺・さいたま新都心駅周辺地区-浦和駅周辺地区が一つの軸状の都心で、それ以外は生活拠点駅として位置付ける
- ・東京における都心(東京)-副都心(新宿)という位置づけをさいたま市に当てはめてもそぐわないため、欲張らず、ミニ東京の考え方を採らない
- ・浦和における行政機能をさいたま新都心へ移転することで、交通負担を減らし、住宅都市としての特性を伸ばす

●個人商店の活性化

- ・後継者問題をはじめ、個人商店を残す工夫、努力が必要
- ・クレジットカードが使えるよう公的サポートが必要
- ・古民家の保存、リニューアルによる再活用
- ・副都心周辺の残された農地を活かした地産地消型レストラン

●周辺から副都心までのアクセス、足の確保

- ・タクシー、コミュニティバスの活用
- ・道路整備の促進

●駅のバリアフリー化

【都心・副都心それぞれについて】

●大宮駅周辺の道路・公共交通の改善

- ・道路整備、東西地下通路、東西交通などが課題であり、東武鉄道は強化が必要(ホーム不足)

●さいたま新都心の国際対応力の強化

- ・国際的施設のプログラム内容が国際対応になっていない
- ・宿泊機能がない
- ・チェーン店が多い

●浦和周辺地区の位置づけの明確化

- ・住宅都市としてはよいが、都心と位置付ける場合は、東西地下通路が繋がっていない、道路が狭い、歩道がガタガタしているなど、不備な点が多く地盤沈下気味である
- ・市役所をさいたま新都心へ移転させる

●武蔵浦和駅の改善

- ・開発途中でイメージが確定しないが、駅の改札口、バリアフリーの推進が必要

●さいたまスーパーアリーナの一層の活用

- ・さいたまスーパーアリーナの文化的利用の一層の促進（韓国ではここ でコンサートをすることがステータスになっている）
- ・ショッピングセンターに頼り過ぎてはいけない

●岩槻駅周辺地区の商業機能の充実

- ・ショッピングセンターの誘致

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

- **都心・副都心のあり方について市民と共有化**
 - ・都心、副都心の位置づけ、役割分担のあり方等について、市民感覚とのずれへの対応
- **実情に合った都市整備の推進**
 - ・市民との熟議を経た都市整備の選択と集中による道路整備など基盤整備の一層の促進。
 - ・高齢化、人口減少トレンドを前提とした開発整備
- **都心・副都心への交通アクセスの充実**
 - ・周辺から副都心へのアクセス、足の確保。都心・副都心周辺の道路整備の促進
- **個人商店を残す工夫、努力、公的サポートの実施**
 - ・クレジットカードが使えるような公的サポートを実施
 - ・古民家の保存、リニューアル再活用を促進させる公的サポートの実施
 - ・後継者問題へのサポート
 - ・防災面での活用、位置付けの明確化

「市民一人ひとりができること」

- **個人商店を残す努力**
 - ・(店主として)副都心周辺の残された農地を活かした地産地消型レストランを展開
 - ・後継者問題への対応

「企業ができること」

- **(鉄道事業者)駅の質の向上**
 - ・JRや東武鉄道は、企業として一層の駅のバリアフリー化、改札口やホームの強化などを図る
- **駐車場の休日開放**
 - ・休日に、企業や役所の駐車場を一般開放
- **都心のプロモーション活動の促進**
 - ・企業イベント、タレントを使った都心のプロモーション活動の促進

「集まればできそうなこと」

特になし

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●駅の改善**

- ・大宮駅(東武鉄道)の高架化によるホーム増設
- ・南浦和駅の混雑緩和などを改善

●公共交通の充実

- ・コミュニティバスのワンコイン化と30分間隔での運行
- ・バスよりも輸送量の大きいLRTによるショッピングセンターや駅へのアクセス向上
- ・LRTやJR駅に、多方面への高速バスのターミナル設置

●自転車利用を減らす

- ・自転車利用から、バスなどの公共交通への転換の促進

●交通渋滞の緩和

- ・交通量の減少・平準化に寄与するフレックス・タイムの導入(企業)
- ・最善ネットワーク(道路)計画の見直し
- ・長期的に、地下化・高架化・モノレールなどの検討

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●交通体系や計画の見直し

- ・今の時代に沿った計画への見直し
- ・東西交通網の確立

●公共交通への転換の推進

- ・運賃補助を導入するなど、バスに乗るインセンティブを設け、公共交通への転換を進める

●交通規制の見直し

- ・エリア別、道路の機能別など、メリハリのある交通規制に見直す
- ・一方通行の見直し

●道路の改善

- ・電線地中化の促進
- ・狭あい道路の「すみ切り」化、カーブミラー設置の促進

●駐車場、駐輪場の確保

- ・東大宮駅における地下駐車場の整備
- ・北与野駅地下駐車場の駐輪場化

●自転車の安全対策

- ・自転車専用道路の設置

●さいたま市の自然を生かした交通

- ・専用サイクリングロードの設置
- ・荒川水路を生かした船の復活(防災面からも、陸上交通以外の手段を確保)

「市民一人ひとりができること」

●安全交通マップの作成

- ・バス停の時刻表や裏道情報なども掲載した、高齢者や障害者向けの交通マップ(安全マップ)を、市の補助のもと、地域コミュニティレベルで作成

●自転車利用を減らす

- ・自転車利用者を減らす対策として、「15分早く出よう」運動を市民レベルで進める
- ・自転車ではなくバスを利用し、自転車利用者数を減らす

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？（続）

「企業ができること」

●フレックスタイムの導入

・フレックスタイムを導入し、交通量の減少・平準化への協力

●公共交通の充実

・公共交通（コミュニティバスなど）の利用促進に向けた乗車賃の無料化

●駅の改善

・南浦和駅のバリアフリー化
・武蔵浦和駅の改札口の改善

●バスの充実

・事前予約できるなどITを活用した利便性の高いデマンドバスを郊外部に導入
・大宮ルート（大回り）循環の開発
・バス事業者の魅力あるダイヤ、系統の見直し
・バス車両に自転車乗り込みを可能とする

「集まればできそうなこと」

●安全交通マップの作成

・自治会単位での、時刻表なども掲載した安全交通マップの作成

●公共交通について

- ・東西の公共交通を充実してほしい。埼京線の開業により、バス路線が減っているので、コミュニティバス等で補完してもらえると嬉しい。
- ・宮原駅に快速電車を停車してほしい。
- ・地下鉄は早くに完成させるべき。多少の赤字は何とかなる、すべきでしょう。岩槻～アーバンまでもお願いします。いつまでも延ばし延ばしにしない決断が必要です。50年、100年を見て！

●自転車について

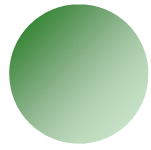
- ・市民：自転車のマナー向上、ルール認識の啓発活動をする。

●まちづくりについて

- ・行政：さいたま市のまちづくりで、過去の歴史、間違ったこと、良かったことを検証し、まちづくりの計画に生かしていく。
- ・江戸時代から独立して存在していたところが、合併して平等に地域を発展させるというところに無理がある。

●市民の役割について

- ・住民(市民)として出来ることまで意見の集約がなかったと思う。



産業・経済

<第1グループの皆さん>

榎本さん

門脇さん

新藤さん

平岡さん

<第2グループの皆さん>

田中さん

寺下さん

廣川さん

山口さん

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

【全般】

●地域ブランドの確立

- ・情報が伝わってこない
- ・ブランド力がないため、地域ブランドを確立する

●子どもから大人まで楽しめるまちづくり

- ・遊べるところが少なく、遊園地など遊べるところが増えると良い

- ・大人の楽しむ場がないため、ナイトライフなどの充実が必要

●寝・職・遊が揃ったまちづくり

【農業】

●さいたま市らしい農業振興

- ・現状は、存在に重みがない
- ・都市農園の充実化
- ・高級食材を提供
- ・さいたま市らしい地産地消の展開
- ・高齢者も若者も取り組みやすい農業にする

【商業】

●商業の魅力向上

- ・商店街は魅力に欠けているため、ウィンドウショッピングの楽しい商店街にする
- ・市民から楽しみの視点を提案しながら商業を盛り上げる
- ・統一感のない開発になっており、専門家を入れた開発が必要

【観光】

●回遊性のある観光地づくり

- ・現状は存在に重みがなく(弱い)、地域カラーが見えない
- ・駅から離れたところに、見どころをつくり回遊性を高める

【サービス業、コミュニティビジネス】

●地域の課題解決となるビジネスの創出

- ・雇用の場や高齢者の活用の場となる、開業塾や高齢者向けベンチャー支援などが増えると良い
- ・仕事と子育ての両立支援や、子育てサポートの更なる拡充
- ・医療産業の充実

【企業誘致・新産業】

●新たな企業誘致策の活用

- ・法人住民税を引き下げるなどの法人向け誘致特区とし、企業を誘致

●ロボット産業、環境産業の推進

【雇用】

●若者の地元雇用の推進

- ・若者が地元で働けるまち
- ・若者が地元で働けるための企業情報や、ビジネスマッチング情報を若者が入手できるようにする

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

【全般】

●情報発信の強化

- ・インターネットに情報を開示する

【商業】

●明確な計画づくり

- ・計画的なまちづくりを進める(どういう街をつくるかを明確にする)
- ・専門家を入れて、主要駅前顔づくりを行う

●エンタテインメント産業の誘致

【企業誘致】

●企業誘致の検討

【雇用】

●起業家支援

「市民一人ひとりができること」

【農業】

●地産地消の生活を送る

【商業】

●商業活性化の一役を担う

- ・バイさいたま運動(地元で地元のものを買う)を
実践
- ・埼玉の魅力再発見に努めて、口コミで伝える

【サービス業・コミュニティビジネス】

●子育てのサポートに参画

「企業ができること」

【農業】

●農地の提供

【商業】

●ブランド店の出店

●地元企業と地域の連携

【雇用】

●マッチングの推進

- ・ハローワークと連携し、若者の雇用につながる情報提供や、
マッチングに取り組む

「集まればできそうなこと」

【商業】

●地域の商業をみんなで盛り上げる

- ・過ごしやすさをみんなで自慢する
- ・「さいたまライフスタイル」のブランド化

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●企業誘致**

- ・経済活性化、増収効果(法人住民税)、雇用機会創出につながる企業の誘致
- ・製造業を中心に、本社機能・研究機能を誘致

●他業種への進出

- ・技術力等を活用し、付加価値の高い他分野へ進出

●能力ある高齢者・女性の活用

- ・現段階では十分活かしきれていない能力ある人材の活用
- ・ベンチャー企業立ち上げを支援するなど、能力ある人材を活用

●サテライトキャンパスの設置

- ・幅広く市民が参加できるサテライトキャンパスを駅前等に設置(埼玉大学の教育関連など)

●医療産業(病院ほか)の集積

- ・東京から近い、東京ほど地価は高くない等の特性を活かし、様々な疾病に対し、広く・深く対応できる医療産業を集積

●さいたま市の強みを活かした産業の強化

- ・サッカーグッズ関連、盆栽関連、鉄道関連などの産業を強化
- ・これらの強みを組み合わせ、観光客を呼び込む

●商業、エンタテインメント産業の充実

- ・小さな子供が安心して遊べる、(手ごろな規模の)室内型遊園地
- ・東浦和駅周辺にショッピングモールを整備
- ・さいたま市の特産品販売ショップの設置

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●企業誘致に向けたPRの強化

- ・まず「どのような産業の誘致が可能か」を行政で検討
- ・市民が市の産業の現状や強みを認識できるよう、また市民が気付くまで、市民への情報提供、PRを強化
- ・現状のPR「災害に強い」ことから一歩進め、「リスクマネジメントに強い」点も強調すべき

●他業種への進出支援

- ・関係者マッチングの仲介
- ・国、他の政令指定都市の施策動向をフォロー

●サテライトキャンパスの充実

- ・現状、市民に開催情報が十分伝わっていないため、関連情報の発信を強化
- ・大学や民間企業（広告代理店ほか）との連携を推進

●医療産業（病院ほか）の集積に向けた支援

- ・物件の紹介、補助金の支給など、用地確保への支援

●さいたま市の強みを活かした産業の強化

「市民一人ひとりができること」

●さいたま市の強みを活かした産業の強化

- ・サッカーファンが中心となって、ファンのための雑誌をつくる
- ・盆栽関連について、学校でサークル活動を行ったり、主婦等の愛好者を育てる
- ・各家庭が盆栽の飾り付けを競い合う

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？（続）

「企業ができること」

●医療関連施設(病院等)を立地

・至便な場所や駅近くに、用地を確保

●病院の患者ニーズへの対応

・症状による医院等の紹介、診療時間の弾力的対応、根本的治癒や予防医療の指導など、患者ニーズへの対応

●さいたま市の強みを活かした産業の強化

- ・サッカー専門店をつくる
- ・サッカー関連のカタログを整備する
- ・サッカー関連の全商品揃う店舗をオープンする
- ・販路を開拓する
- ・盆栽をインターネットやホームセンターで販売
- ・鉄道博物館の入館料金引き下げ

「集まればできそうなこと」

●強みをPR

- ・企業誘致において、「リスクマネジメントがしっかりしている」点をイベントを通じてPR
- ・他業種への進出において、関係者が連携した「イメージ戦略」、「PR」を強化

●能力ある高齢者・女性の活用・人材集め

・さいたま市では能力ある人材を活用するという“イメージ”を醸成

●サテライトキャンパスの充実

・一定以上の「稼働率」が確保できるよう、関係者が協力

●さいたま市の強みを活かした産業の強化

- ・サッカーファンが「情報交換できる場」をつくり、盛り上げる
- ・サッカーイベント等を開催し、PRを強化
- ・盆栽初心者に、「盆栽の入門的内容」を教える
- ・駅に盆栽を展示・パンフレットを置く、他に展示コーナーを設置する等して、盆栽を「身近なもの」にする
- ・母の日、父の日等と並ぶ「盆栽の日」をつくり、ポスターやインターネットも活用し、PRする
- ・鉄道博物館を「鉄道マニアの聖地」にする
- ・「鉄道関連グッズの販売店(駅弁、ご当地ラーメン等も含む)」を鉄道博物館の周りに集積させ、マップの作成や口コミ(対面、SNSほか)で情報を広げる
- ・市が設定している観光ルートの改善
- ・「日本一のケヤキ通り」のように、景観を整備し、観光客も歩いて楽しめるようにする
- ・さいたまスーパーアリーナ等で関連イベントを開催

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●雇用の拡大

- ・学生は、就職したくても、就きたい仕事に就けずにアルバイトをしている人が多い
- ・グローバル化による競争激化で、残業が多くなるなど仕事がきつくなり、特に女性は働く意欲はあっても、結婚、子育てしながらの働き方が難しくなっている
- ・共稼ぎでなければ経済的にやっていけない状態
- ・企業側からは、正規職員として採用したい人材がいないとの声もある
- ・現在は将来の夢を描けない状態であり、とにかく雇用機会が増えてほしい

●地元でのビジネスの創出

- ・地域に愛着を持って地域のニーズを知り、それが地元での仕事に結びつくビジネス環境になってほしい
- ・中小企業や起業家が活躍でき、地域に人・モノ・金が循環するまちになってほしい

●女性労働力の拡大

- ・商業やサービス業などの生活密着型の分野は、女性が得意とする分野であり就業率もあがるのではないか

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

- **学生の選択肢の幅を広げる**
 - ・学校で職人の技をみせる授業を行う
- **企業と求職者とのミスマッチ対策**
 - ・企業と学生のミスマッチを減らすため、大学生の職業体験の分野を増やし間口を広くする、また、大学生であれば3～4年生の時ではなく1～2年生の早めの時期に行う
- **雇用支援の情報発信の強化**
 - ・行政で行っている支援をもっと戦略的に情報発信する
 - ・メール登録制度で興味分野の求人情報を発信する
- **保育付きの就労支援**
- **金融面での支援**

「市民一人ひとりができること」

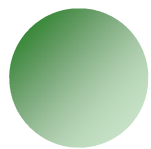
- **地域経済の担い手の意識をもつ**
 - ・地域経済の担い手であるという意識を持つ
 - ・できるだけ買物は地元で行い、地元にお金を落とす
- **地産地消の実践**
 - ・地域のもを食べる
 - ・子供のころから、給食を通じて地域の食材を知る
- **起業**
 - ・起業家支援が充実すれば挑戦する。
- **ネットワーク整備**
 - ・中小企業や零細企業が利用できるネットワークの整備

「企業ができること」

- **積極的なPR**
 - ・大手の民間職業紹介事業者などからPRの仕方を学ぶなど、中小企業のPR下手を解消する
- **人材育成制度の充実**
 - ・大企業だけでなく中小企業も、人材育成制度を充実させる
- **終身雇用制**
 - ・意欲のある人は終身雇用で雇用の安定化を図る

「集まればできそうなこと」

- **レベルの高い人材育成**
 - ・一匹狼の職人が集まって技術を教える
 - ・大学や専門学校の知識やノウハウを結集して横断的に人材育成を行う
- **地域に愛着をもった人材の育成**
 - ・地域に愛着をもつことで、地域に密着したビジネスの発想につながるため、子供のころから地域に愛着をもつ人材に育てていく



安全・生活環境

<第1グループの皆さん>

磯川さん

杉田さん

星野さん

山崎さん

<第2グループの皆さん>

小澤(奈)さん

佐々木さん

高橋さん

芳賀さん

<第3グループの皆さん>

勝田さん

小林(二)さん

山本さん

吉川さん

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」

●**確実な避難時対応及び避難場所の設定、周知(災害対策)**

- ・災害時の避難場所の明確化
- ・災害時に被災情報を各避難場所に伝達するツールを作成
- ・避難時緊急総合マニュアル(避難場所、備蓄、消火設備、連絡体制、救護機関、伝言ダイヤル、住民の役割分担等)の配布

●**地域で担う災害対策**

- ・地域全体で日常のコミュニケーション形成
- ・自治会による災害弱者の存在および救助方法の確認

●**帰宅困難者対応(災害対策)**

- ・帰宅困難者を含めた非常用物資の供給方法

●**災害時に活用できる施設整備(災害対策)**

- ・公園を有効活用、例えば、被災者が野営・自炊できる設備、ドクターヘリの離着陸、井戸水の利用など考慮

●**他都市との連携(災害対策)**

- ・他の都市と災害時の連携協定を結ぶ

●**備蓄物資の有効活用(災害対策)**

- ・備蓄物資(水、乾パン等)を期限切れで捨てずに再利用のイベントを開催、女子栄養大の学生等にも協力してもらい、バーベキューなどで提供

●**豪雨対策(災害対策)**

- ・豪雨に対する河川・堤防の現状の把握

●**地域の耐震性・リスクの把握**

- ・震度6以上に耐える建物、橋梁等の把握および活断層の確認

●**耐震化の推進**

- ・住宅の耐震工事への補助充実

●**防災に対する市民への啓発**

- ・防災関連のイベントを定期的で開催し、訓練へ気軽に参加できるように工夫する

●**消防の充実**

- ・高層マンションへの消防対応の充実

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

●行政の災害時体制の強化

- ・緊急時マニュアルのオープン化および徹底
- ・民生委員など増員
- ・防災備蓄の適正な量の検討

●情報伝達の強化

- ・災害情報の伝達・共有化のシステム構築
- ・行政による若者を活用したメールなどソフト対策の指導
- ・公衆電話のコンビニ、公民館への設置(災害時に有効)
- ・居住地周辺の避難場所がわかる案内板の設置
- ・区ベース程度での連絡先マップ作成(支所、病院、消防署等)

●災害に強いまちづくりの推進

- ・狭い路地等での火災防止帯の設置
- ・建物の不燃化を促進
- ・公共施設の耐震化

●企業との連携強化

- ・行政と関連業者(土木、医療等)との緊急時の連携強化

●市民との連携

- ・けが人の応急処置および人命救助の訓練(AED等)の定期実施
- ・自治会の支援強化

「企業ができること」

●災害時協力

- ・事務所、工場に広いスペースがあれば、備蓄(常温保存の非常食、水等)への協力
- ・避難場所だけでなく、災害時に水、トイレ、救助道具、備蓄物資等の提供

●安全な街づくりの促進

- ・電柱の地下埋設を促進して欲しい

「市民一人ひとりができること」

●高齢者・障害者対応

- ・自治会・班により若者の協力を得て、高齢者、障害者へ情報伝達する

●家族でのとりきめ

- ・家族で災害時の連絡方法、集合場所を相談する
- ・自分の身は自分で守ることを家庭で周知

●転入者を含めた地域ぐるみの対策強化

- ・若者、転入者の防災活動への参加を促進
- ・転入者とのコミュニケーションを形成
- ・地区住民による役割分担と情報の共有(消火、救済、状況伝達等)のため定期的に集会、訓練を行う
- ・災害時のペット対策を考えておく
- ・リヤカーの共有(災害時に有効)

●防災カードを活用

●防災グッズの利用方法の習得

「集まればできそうなこと」

●地域ぐるみの防災体制の確立

- ・行政支援に基づく地区住民の体制づくり
- ・町内会(自治会)の連携により防災拠点の周知徹底を図る
- ・学校、住民、企業が参加する災害を想定した防災訓練の実施
- ・公的機関(消防、警察等)と町内会(自治会)との共同訓練を行う

●治安対策

- ・帰宅難民に対する国道沿いの治安対策

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**【交通関連】****●通行者のマナー向上**

- ・自転車、人や車と衝突するなど、自転車に係る事故が増加
- ・歩道を通行するモノの多様化（人（通勤者・通学者、ベビーカー）、自転車（子供を乗せた女性、若者））
- ・通行者のマナーの悪化（若者、高齢者（自転車に乗っている際に後ろ見ない・携帯電話を使用）、自転車）
- ・交通において譲り合いが必要

●交通安全教育の強化

- ・交通安全教育を繰り返し実施

【防犯関連】**●防犯の推進**

- ・小さな子供や女性が被害者となる犯罪を防止
- ・昼間、特に夜間の犯罪発生率が高い
- ・子供の安全確保が必要

【消費生活関連】**●消費生活の安全確保**

- ・ターゲットになりやすい高齢者への対策
- ・繰り返し被害を受けやすいため、被害の再発防止が必要

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

【交通関連】

●道路の整備

・車道・歩道の分離、通学路での通行帯の設置 ・自転車通行帯の表示、明確化 ・グリーンベルトの設置 ・誘導ブロック、カーブミラー、有機LED等の街灯の設置 ・歩道、自転車道の路面の改良(凹凸解消) ・道路拡幅に備え先行的に用地買収

●交差点の整備

・信号機の増設
・交差点の左折巻き込み防止に向け、歩行者の時差式信号を設置

●自転車対策

・違反摘発・盗難対策の双方に効果が期待される、自転車登録制・自転車免許制の導入検討
・駅前の駐輪場(自転車・バイク)の整備
・自転車の無灯火、自転車の歩道走行などに対する交通順守徹底に向けた取り締まり強化

●交通安全対策

・事故多発箇所に看板を設置 ・交通ルールの再検討
・普及啓発に向けたわかりやすいパンフレットの作成
・運転免許証の更新時における交通ルールの再教育

【防犯関連】

●防犯対策、体制の強化

・防犯パトロールの強化 ・交番の常駐化、交番の設置場所の増加
・犯罪者が潜む危険のある道路脇の植え込み等への街灯整備や、雑草地の清掃を指導
・ITを活用するなど、不審者情報の積極的発信 ・警察官のモラル向上

●防犯設備の整備

・街灯(防犯ベル付きなど)や防犯カメラの設置強化
・いざという時は逃げ込み連絡のできる電話ボックスの復活
・「防犯重点地区」等の看板を設置

【消費生活関連】

●消費者の安全確保対策

・詐欺まがいの事案も含め、取り締まりを強化
・年金支給時の市の放送の継続化
・相談者に対する適切な対応

「市民一人ひとりができること」

【交通関連】

●交通安全に対する意識、教育、監視などの取組

・人が集う病院・スーパー等でチラシ配布
・子供が小さい時から、家庭内で交通ルールを話し合う
・自治会主催による交通安全教育の実施
・シルバー人材等を活用した、交通監視の強化

【防犯関連】

●近隣、地域との協力など

・近隣との交流を強化し、防犯の助け合いや不審者が目立つようにする
・近隣住民同士で不審者への声掛け(犯罪の未然防止)
・地域が高齢者をフォローする
・自治会で防犯パトロールを実施
・シルバー人材等を活用した、防犯監視の強化
・家族同士で注意喚起をする

【消費生活関連】

●警戒心をもつ

・各人が、警戒心を持って見知らぬ来訪者に対応するのが基本(知らない人・番号からの電話に回答しない、インターホンが鳴ってもすぐ鍵を開けない、宅配は日時指定で引き取るなど)

●地域コミュニケーションの活性化

・地域内のコミュニケーションの活性化

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？（続）

「企業ができること」

【交通関連】

●交通安全についての社内教育

- ・交通安全関連のパンフレットを会社で配布
- ・警察と連携し、会社で交通安全講習会の開催
- ・安全運転者や駐車場管理者等を通じた、社内の交通安全教育の強化

●安全遵守者の表彰制度の導入

- ・安全遵守者を表彰

●交通安全のPR支援

- ・交通順守のコマーシャルを放映

●登校時のサポート

- ・朝の通学時等に会社周辺の安全登校をサポート

【防犯関連】

●防犯機能の充実、避難場所の提供

- ・行政等ともタイアップし、コンビニ等で、防犯カメラを設置
- ・行政等ともタイアップし、コンビニ等で、いざという時の避難場所を提供

●子供への携帯電話の配布

- ・IT産業とタイアップして、GPS機能等つきの防犯に配慮した携帯電話を子供に配布

【消費生活関連】

●IT技術の活用

- ・IT産業の技術が、消費生活の安全確保に係る対応に活かさないか検討

「集まればできそうなこと」

【交通関連】

●普及啓発、パトロール、人材育成などの交通安全対策の取組

- ・小中高等学校等での交通安全の普及啓発（興味を持つよう話にする、繰り返し説明）
- ・交通事故発生のある箇所を示すマップを作成し、情報を共有化し対策をとる
- ・交通パトロールの強化
- ・放置自転車の取り締まり強化
- ※上記は、市民・学校・PTA・警察・企業等が連携して行う
- ・交通パトロールする人への教育を強化（＝人材の育成）

【防犯関連】

●パトロール、注意喚起、防犯教育などの取組

- ・コンビニやゲームセンター周辺、昼間の公園などへの防犯パトロールの強化
- ・パトロールを実施している民間団体への支援強化
- ・犯罪発生のある箇所を示すマップを作成し、情報を共有化し対策をとる
- ・下校時に注意喚起を促す放送を実施
- ・「1人で帰らない」「暗くなる前に帰る」「明るい道を歩く」等の教育を徹底
- ・小学校低学年から、防犯に対する意識を植え付ける
- ※上記は、民生委員と市民・町内会（自治会）・学校・PTA・警察・企業等が連携して行う
- ・防犯ブザー・ベル・笛を子供に配布
- ・親や学校のみには連絡できないGPS付き携帯電話を子供に配布
- ・民生委員の増員、民生委員の活動範囲の拡大

●バス運行による帰宅支援

- ・子供や女性を主な対象で、交通の不便な地域において、夜間の帰宅支援のためコミュニティバスを運行

【消費生活関連】

●消費生活の安全確保への取組

- ・詐欺に係る情報を交換する、小テスト等も使いながら詐欺に係る普及啓発を強化する
- ・パトロールの強化
- ※上記は、市民・町内会（自治会）・学校・PTA・民生委員・警察等が連携して行う
- ・シルバー世代も活用したパトロールの実施

●高齢者の被害を防ぐ

- ・プライバシーに配慮しつつ、高齢者世帯の情報を把握したうえで、声掛けをする
- ・認知症等の兆候がある高齢者においては、後見人制度の適用も検討する
- ※上記は、市民・町内会（自治会）・学校・PTA・民生委員・警察等が連携して行う

— 検討結果の詳細 —

テーマ1：「課題」、「将来こうなってほしい」**●人口減少社会を見据えた計画**

- ・人口減少下の社会に応じた将来計画が必要

●災害時にも強いインフラ

- ・インフラは身近で重要な施設。災害時でも寸断されない安定したシステムであってほしい

●安全・安心な水の供給(上水道)

- ・水源は大事
- ・安全な水質を確保
- ・テロ攻撃を防御するセキュリティが必要
- ・地震などで寸断されないように、老朽施設は更新が必要。更新にともなって料金が値上げされるようなら、市民が納得できるような説明をしてほしい。税金で負担する部分と料金で負担する部分の議論は必要
- ・供給が寸断された場合の対応策も考えておく。例えば井戸を活用したり、貯水槽を分散確保しておく。
- ・合併で市域が大きくなったため、異なる経路で配水されているようだが、地域格差のない平等なサービスにしてほしい
- ・トリハロメタンが心配で煮沸している。飲み水にはしていない

●強い下水道の整備

- ・下水道管や処理施設を強化し、災害に強い下水道とする
- ・市域が大きいため下水道が未整備な地区がある
- ・芝川が汚い
- ・整備済区域では各住戸で下水道管への接続を進めるべきだが、工事費の負担が大きいため補助や融資を手厚くしてほしい

●多様な住宅の整備

- ・高齢者福祉のための公的住宅は必要だが、高齢者だけでなく若年世帯への支援も必要。両者が一緒に暮らせる心豊かに暮らせる住宅が必要
- ・利便性の高い場所では高層化や行政施設との複合化などで土地を有効活用する
- ・ハードの整備だけでなく、雇用創出や産業創出などと住宅施策をセットで考える

テーマ2：「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い？

「行政がすべきこと」

【上水道】

●安全確保

- ・水源や取水箇所でのチェックをするなど、水の安全性、水質を管理
- ・テロ対策

●施設整備

- ・老朽化している配管の調査と更新
- ・貯水槽の整備
- ・自家発電設備など災害時でも供給できるシステムの整備

●情報発信、説明責任

- ・更新計画やスケジュール情報を市民に開示
- ・丁寧な工事説明

●平等なサービス提供

- ・地域格差のない平等なサービスと料金設定

【下水道】

●整備の推進

- ・未整備区域の解消
- ・整備済区域では、補助や融資を手厚くするなど、各住戸の下水道への接続を普及推進
- ・安定的な処理システムをつくる
- ・政令都市になったメリットを活かす(国の補助金など拡大)

●災害時の対応策を準備

- ・災害時の対応策を考えておく

【住宅】

●建て替え支援

- ・高齢者住宅、福祉サービス、若年世帯を支援する建て替え事業。(グループホーム、コミュニティキッチン、高齢者のシェアハウス、福祉サービス付き住宅など)

●効率的な資産活用

- ・図書館などの行政施設と複合化する建て替え事業の実施
- ・人気のない住宅は民間への売却も検討

●公平な入居審査の実施

「市民一人ひとり、企業、集まればできること」

【上水道】

●興味をもつ

- ・水、上水道に関する興味をもち、学習・調査

●節水

- ・節水意識をもつ
- ・井戸水の活用
- ・節水型のトイレや洗濯機の使用

●災害時の蓄え

- ・災害時に供給がなくなった場合の備え

【下水道】

●ハザードマップの作成

- ・上下水道の老朽化や万一の時のためのハザードマップをつくる

●情報発信の強化

- ・整備計画などの情報を広く発信する

●水質・環境に配慮した使用

- ・中水道など水のリサイクルに取り組む
- ・処理できないものを流さない
- ・河川に直接放流しない

【住宅】

●地域コミュニティづくり

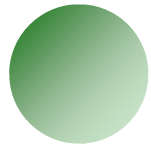
- ・市営住宅を含む周辺地域のコミュニティづくりに取り組む

●市営住宅の質の向上、多様化への取組

- ・市営住宅の居住者への在宅サービスを充実
- ・福祉型の市営住宅だけでなく、産業雇用創出型の住宅や環境・エコの先端モデル住宅などに取り組む

●**災害時における緊急医療について**

- ・災害時での緊急医療関係との連携も重視してほしい



交流・コミュニティ

<第1グループの皆さん>

新井(淑)さん

中鶴さん

中根さん

福島さん

<第2グループの皆さん>

櫛田さん

菅原さん

宮本さん

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1:「課題」、「将来こうなってほしい」

●家庭内での男女差別の是正

- ・家庭内での平等性
- ・男性は職場の地位が上がると仕事の時間が増え家事への時間がとれないなど、男性の家事への取組みは難しい

●学校のいじめ問題、児童虐待への対応

- ・スクールカウンセラーの充実
- ・段階的なきめ細かいケアが必要
- ・民生委員を増やし、質の向上を図る

●同和問題に対する市民の意識を高める

- ・市が同和問題に取り組んでいるが、市民は気にしたことがない

●見守り、相談体制の充実

- ・人権問題を相談できるのはまず市役所であるため、相談窓口を充実
- ・登用制度を活用するなど、市民ボランティアを活用
- ・ボランティアと自治会の連携
- ・虐待等に気づく近所の目が必要
- ・市の情報を市民が受け止めきれない状況であるため、行政、市民、相談機関がつながり、正しい情報を発信し伝達していく
- ・区の人材を区の活動に参加させ、活かしていく

●地域コミュニティの充実

- ・自治会に新しい考え方を取り入れ活性化
- ・地域内で新興住宅地の住人と以前からの居住地の住人との間で考えが異なる部分もあるが、歩み寄る

テーマ2:「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い?

「行政がすべきこと」

●女性登用の拡大

・行政自らが女性を登用し、女性の登用を促進

●相談体制の充実

・相談窓口の一本化
・民生委員の増員、質を上げる

●学校でのいじめ問題への対応

・いじめの問題においては、教師の力量で解決できることもあるため、教育委員会及び教師の役割は大きい

●人権教育の実施

・人権問題を教育で取り上げ、子供のころから啓発を図る

●企業への啓発

・女性の登用について企業への啓発を行う

●市民ボランティアの仕組みの充実

・市民ボランティアの募集、登録、アレンジを行う

●情報発信や広報の方法を工夫

「市民一人ひとりができること」

●人権問題について意識する

・家庭で教育し、意識を変えていく
・DV、同和問題への意識を高める

●相談する

・子育ては、ひとりで抱え込まず、悩まないようにする

●日頃からコミュニケーションをとる

・いじめが起こる前から、子供ひとりひとりが日々の交友関係の中で困難に立ち向かう力を養う

●ボランティアへの登録

・潜在的に「何かやりたい」という意識を持っている人は多く、その気持ち・意欲をボランティアに活かす

「企業ができること」

●若い世代の育成

・現代の若い人は、今の管理職世代よりも甘えている点や弱い点はあるが、若い人を認めることで、精神面から育てる

●ワーキングシェアの導入

・ある一定の生産性を維持しながら、業務等を細分化し各人の適性に合った分野で働けるようにする

●女性登用の促進

・会社をあげて、女性登用を強制的に実施

「集まればできそうなこと」

●地域コミュニティの充実

・多くの自治会では活動が停滞気味であるため、組織のあり方などの考え方を根本から変え、より多くの人に参加できる形にするなど、自治会の活性化を図る

・町内会長さんなど、町内会ごとに何でも相談できる人を決める

— 検討結果の詳細 —

テーマ1:「課題」、「将来こうなってほしい」**●自治会の充実・強化**

- ・自治会の入会方法がわからない
- ・回覧と祭り以外に業務を拡大
- ・転入者がなじみやすい自治会にする必要がある
- ・退職者が参加し活躍できる自治会にする
- ・自治会へスカウトし、メンバーを増やす
- ・自治会でフェイスブックを活用
- ・自治会の情報を公開する
- ・女性の自治会長を増やす

●子供つながりのコミュニティの活用

- ・子供会の活用
- ・PTAとの連携

●NPOの活用

- ・NPOのマネジメントを強化し、NPOの活用を拡大

●行政の取組み情報の発信強化

テーマ2:「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い?

「行政がすべきこと」

●支援情報の周知の徹底

- ・行政がサポートしている事柄の周知

●コミュニティ協議会の拡大

- ・コミュニティ協議会(中央区)の各区への展開

「市民一人ひとりができること」

●自治会への参画

- ・自治会への積極的参画
- ・自治会情報の公開

●地域を支える活動に参加

- ・学童保育などの運営を住民がサポート

「企業ができること」

●若者の地元勤務に向けた支援

- ・ハローワークと提携するなど、若者が地元で勤務できるような情報を斡旋
- ・介護等のサービス業の展開

●地域の担い手育成支援

- ・NPOに対するマネジメント支援(人材提供)

「集まればできそうなこと」

●時代に合った自治会組織に変える

- ・回覧やまつり以外の事業を展開するなど、自治会を強化
- ・自治会でフェイスブックを活用
- ・新規参入者にも入りやすい自治会の形成

－ 検討結果の詳細 －

テーマ1:「課題」、「将来こうなってほしい」

●公共サービスの多文化対応の充実

- ・公共的案内表示等の外国語表記が必要
- ・介護保険制度等のシステムの解説が必要
- ・アパート探しからゴミ捨てまで、居住環境のサポート情報が必要
- ・今後、外国人居住者の高齢化に備えた対応も必要
- ・特に災害時、緊急時の外国人への避難誘導等のサポートが重要
- ・外国人が普通に暮らせるような環境を整える

●国際化・多文化交流に必要な教育の実施

- ・海外では、愛国教育が普通に行われている
- ・近現代の歴史教育が少ない
- ・多文化交流のベースとしての平和教育の必要性

●多文化交流の促進

- ・日本文化の良い点は外国人から聴くとよくわかる、というところに「交流」の本質があるのではないか
- ・具体的な交流のきっかけがない、あれば交流できる。
- ・『身近な』イベント型の交流機会の創出
- ・『身近な』単位の交流拠点の設置
- ・ホームステイ受入可能世帯の登録システムの整備・活用

テーマ2:「誰が」「どんなこと」に取り組めば良い?

「行政がすべきこと」

●「身近な」イベント型の交流機会の創出

- ・身近な祭りでの交流機会を創出
- ・スポーツ、文化面でのイベント交流を推進

●「身近な」単位での交流拠点づくり

- ・図書館や公民館などを活用した拠点づくり
- ・自治会規模の単位で相談できる場所の確保

※箱物をつくるということではなくプログラムとして実施

●外国人が普通に暮らせるような公共サービス、サポートの整備・周知

- ・公共的案内表示等の外国語表記、各種行政サービスの多言語表記などを整備
- ・介護保険制度等のシステムの解説
- ・アパート探しからゴミ捨てまで、居住環境のサポート情報の周知
- ・今後、外国居住者の高齢化に備えた対応
- ・特に災害時、緊急時の外国人への避難誘導等のサポートの整備・周知

●多文化交流のベースとしての平和教育の導入

- ・学校教育をベースとした平和教育の実施
- ・戦争体験を語り継いでいけるようにする

「企業ができること」

●多文化交流への企業協賛

- ・対象国を変えながら「〇〇フェア」などを継続的に開催
- ・料理教室(調理施設がある公民館)

「市民一人ひとりができること」

●多文化交流をサポート

- ・ホームステイ受入可能世帯の登録システムへの登録・活用
- ・外国語ボランティア制度への参画

「集まればできそうなこと」

●「身近な」イベント型の交流機会の創出

- ・身近な祭りでの交流機会を創出
- ・スポーツ、文化面でのイベント交流を推進

●「身近な」単位での交流拠点づくり

- ・図書館や公民館などを活用した拠点づくり
 - ・自治会規模の単位で相談できる場所の確保
- ※箱物をつくるということではなくプログラムとして実施